

残したいもの 伝えたいもの



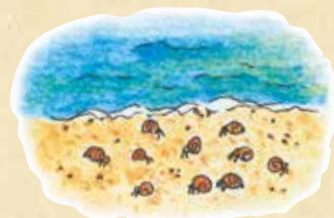
ソテツトンネル



サザンクロスセンター



アマミノクロウサギ



オカヤドカリ



謎のお地藏さん



サガリバナ



ツマベニチョウ



セサミストリート



デイゴの木



泥染め



カミミチ



八月踊り



ジンマル



海の恵み



与論十五夜踊り



アジャゲ



カ石





奄美群島の 12集落の宝もの

残したいもの 伝えたいもの

奄美群島広域事務組合 発行

奄美群島の 12 集落の宝もの

残したいもの 伝りたいもの

奄美群島の自然・歴史・文化……………p4

高梨 修 (奄美市立奄美博物館 館長)

あまみクイズ①……………p34

あまみクイズ②……………p60

シマの命……………p62

PRODUCTION NOTE……………p64

シマをもっと知りたい人へ……………p66

季節こよみ

シマの暮らしの中で身近なもの、大切なもの、季節になると必ず訪れるものなどを曆にしました。祭りのように日程が決まっているものを除き、それぞれの時期は“めやす”ですので、ずれることがあります。祭りは旧暦で行うもの、新暦で行うものがあります。旧暦の祭りはなるべく月日を明記して新暦の月にあてはめました。

沖永良部島……………p48

黒潮に洗われる隆起サンゴ礁の島。青く澄んだ海と白い砂浜、通年温暖でえらぶゆりやキク等の花の島。

人口：12,996 人

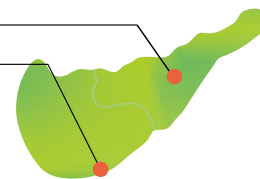
面積：93.65 km²

周囲：55.8km

標高：240m (大山)

和集落 (和泊町) p48

瀬利覚集落 (知名町) p52



与論島……………p56

沖縄本島に最も近い群島最南端の島。隆起サンゴ礁で成り立ち、琉球支配時代のグスクが残る。リゾートアイランドとしても知られる。

人口：5,186 人

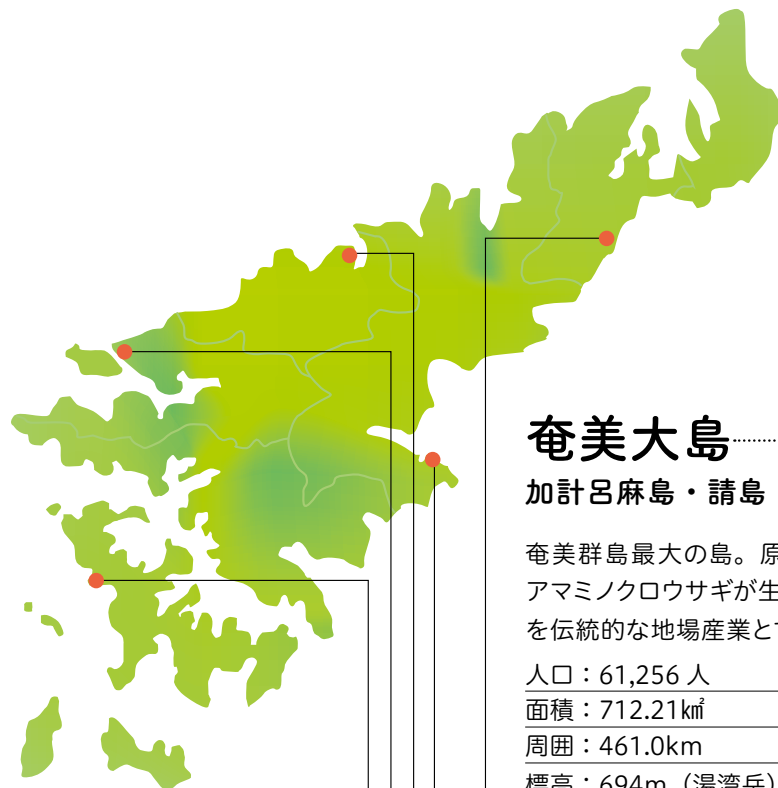
面積：20.47km²

周囲：23.7km

標高：97m



城集落 (与論町) p56



奄美大島……………p10

加計呂麻島・請島・与路島

奄美群島最大の島。原生林に恵まれ、アマミノクロウサギが生息する。大島紬を伝統的な地場産業とする。

人口：61,256人

面積：712.21km²

周囲：461.0km

標高：694m（湯湾岳）

市集落（奄美市住用町） p10

大和浜集落（大和村） p14

宇検集落（宇検村） p18

須子茂集落（瀬戸内町） p22

中戸口集落（龍郷町） p26

徳之島……………p36

東シナ海と太平洋の接するところにある。地質は古生層や琉球石灰岩まで多様。緑多く水が豊かで「子宝の島」とも呼ばれる。

人口：23,497人

面積：247.76km²

周囲：89.2km

標高：645m（井之川岳）

金見集落（徳之島町） p36

当部集落（天城町） p40

上面縄集落（伊仙町） p44

喜界島……………p30

群島で最も新しく生まれた隆起サンゴ礁の島。中世の城久遺跡が出土し、平家や源為朝、僧俊寛などの伝説が多い。

人口：7,212人

面積：56.85km²

周囲：50.0km

標高：204m（百之台）

志戸桶集落（喜界町） p30



奄美群島の自然・歴史・文化

みなさんは、「奄美群島」と聞いて、島の名前や位置がわかりますか。

何を思い浮かべますか。

本書を手にとられたみなさんに、

奄美群島の概要を少しだけ解説いたします。



高梨 修 (奄美市立奄美博物館 館長)



南島雑話 (奄美市立奄美博物館所蔵)



アマミノクロウサギ



アマミシカワガエル

九 州南方の海上には、大小多数の島々が一列に連なる「南西諸島」があります。その距離は南北約 1,200km（東京～札幌や東京～福岡の距離に相当）にも及びます。南西諸島は、鹿児島県に属する大隅諸島・トカラ列島・奄美群島の「薩南諸島」（有人島 21）と沖縄県に属する沖縄諸島・慶良間諸島・宮古諸島・八重山諸島の「琉球諸島」（有人島 47）に分けられます。奄美群島は、鹿児島県の南縁を構成する島々です。喜界島、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島、沖永良部島、与論島の有人 8 島から成り、約 10 万人の人びとが暮らしています。

1 世界自然遺産候補の自然

南西諸島は、もともとユーラシア大陸から分離した陸塊^{りくかい}で、東側に移動しながら隆起と沈降を繰り返し、点在する島として今日に至る成立史があります。この成立過程で、大陸から切り離された陸塊に閉じ込められた動植物が、島の中で独自の進化を遂げて、多数の固有種が生息する世界的にも貴重な生物相が形成されたのです。

南西諸島が位置する北緯 24 度から北緯 31 度の地域は、世界的には中緯度高圧帯に当たるため、砂漠気候等の乾燥地域が多くなります。しかし、南西諸島は、黒潮と大気循環（モンスーン）の影響により、世界的にも稀な亜熱帯湿潤気候の地域になるのです。

その島々は、地形的特徴から「高島」と「低島」に大別することができます。「高島」は、火成岩から成る山地が広がる島です。「低島」は、石灰岩から成る平坦な台地が広がる島です。奄美群島では、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島が「高島」に、喜界島、沖永良部島、与論島が「低島」に分類できます。「高島」と「低島」の自然環境の相違は、人の暮らしの観点からみるならば、①河川の有無、②森林の有無、③耕作地の有無等の「環境文化」の違いを醸成していることがわかります（表 1）。

「高島」と「低島」における環境文化の相違

表 1

	高島	低島
①河川の有無	地表面は火成岩から成るので、降雨は表流水となり、河川が発達する（地表面が湿潤な島＝ウエットの島）。	地表面は石灰岩から成るので、降雨は地下の洞穴に流れ込んでしまい、河川が発達しない（地表面が乾燥した島＝ドライの島）。
②森林の有無	山地があるので、森林に恵まれ、林業が発達する（建築・造船の木材加工技術が発達してきた）。	山地がないので、森林に恵まれず、燃料の薪さえも不足する（高島から木材を供給する交易が形成される）。
③耕作地の有無	山地に占有されているため、平坦地に恵まれず（土地の起伏が激しい）、耕作地が狭い。	山地がないため、平坦地に恵まれ（土地の起伏が小さい）、広い耕作地が形成される。

特に奄美大島・徳之島は、年間降水量が約 3,000mm もあり（東京の年間降水量は約 1,500mm）、世界的にも珍しい「亜熱帯雨林」が形成されています。山地を覆う深い森は、常に雨水を貯え、河川の源流となります。地球上で奄美大島・徳之島の 2 島にしか生息していないアマミノクロウサギに代表される多数の固有種・希少種の生命は、奇跡の森と水（世界的には乾燥地帯が形成される中緯度に位置しているにもかかわらずという意味で）に支えられているのです。

奄美群島の奄美大島・徳之島、沖縄諸島の沖縄本島北部、八重山諸島の西表島の 4 島には、南西諸島の形成史が反映された結果としての世界的にも貴重な生物多様性が認められます。候補地 4 島には、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストに記載されている絶滅危惧種（陸生生物）の 95 種（75 種が固有種）が生息していることから、世界自然遺産候補地として 2020 年の登録を目指し、ユネスコに推薦書を提出しています。独自の生物多様性を誇る世界自然遺産候補地 4 島は、いずれも海に沈んだことがない「高島」ばかりになります。

② 難解な歴史

奄美群島の歴史は、非常に複雑です。1450年前後から「琉球国」（現在の沖縄県）の統治下に入り、1609年から「薩摩藩」（現在の鹿児島県）の統治下となります。表向きは琉球国のまま、薩摩藩の直接支配が行われました。また1868年（明治元年）頃から「鹿児島県」として近代国家に編成されていきますが、太平洋戦争の敗戦後は、1946年から「米軍占領政府」の統治下となり、8年間の行政分離を経験しています（残念ながらあまり知られていません）。奄美群島の歴史の特徴は、こうした複雑な行政統治にあるのです（表2）。

琉球国統治時代以前に目を転じて、やはり教科書的な日本歴史とは著しく異なります。

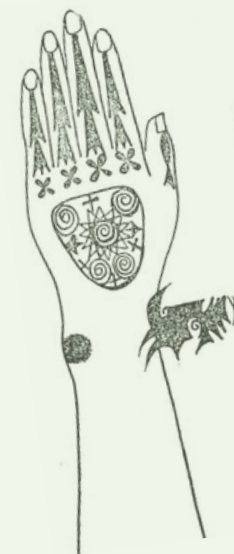
弥生時代の稲作農耕文化や古墳時代の墳丘構築の墓制文化は、南西諸島では受容されませんでした。ただし、弥生時代から古墳時代にかけて、九州以西の政治的社会における有力階層の人びとが身に着けていた装身具類は、ゴホウラ・イモガイ等の奄美群島以南に生息する大型貝類を材料とした貝製品が使われていました。南西諸島は、これらの材料供給地として大型貝類の貝交易の舞台になりました。

奄美群島に農耕社会が形成されるのは、11世紀代です。奄美群島では、弥生時代以降も漁労採集活動を中心とする暮らしが営まれ、平安時代後期頃まで約1,000年間にわたり続いていました。11世紀以降は、南九州に全国最大規模の荘園「島津荘」が形成されると、薩南諸島も硫黄・夜光貝・赤木等の供給地として、日宋貿易に代表される中世国家の交易ネットワークの中に急速に取り込まれていきました。奄美群島にも、城久遺跡群（喜界島）、赤木名城跡（奄美大島）、カムイヤキ陶器窯跡（徳之島）等の拠点の遺跡が次々に営まれるようになります。

こうした奄美群島における動きが、沖縄本島以南の島嶼に波及して、琉球国形成の胎動となる「グスク時代」を引き起こしたと考えられています。

③ 沖縄とも鹿児島とも異なる文化

奄美群島の文化は、日本文化を基層としながら、琉球国統治時代に琉球文化の影響を受け、さらに薩摩藩統治時代に鹿児島文化の影響も強く受けながら醸成されてきた独特のものです。奄美群島と琉球諸島は同じ琉球国ですが、江戸時代以降は、奄美群島が琉球国から事実上切り離され、薩摩藩の直接支配下に置かれたため、その歴史は大きく相違していきます。その歴史の違いが、奄美と沖縄の似て非なる文化の違いを生み出したのです。



奄美歴史年表

表2

日本	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治時代	大正時代	昭和時代	平成時代	新元号時代		
奄美	旧石器時代	縄文時代	時代並行期 弥生・古墳	古代並行期	中世			統治時代 琉球国	統治時代 薩摩藩	明治時代	大正時代	昭和時代	米国統治時代	昭和時代	平成時代	新元号時代	
沖縄	旧石器時代	貝塚時代前期	貝塚時代後期		グスク時代			琉球王国時代			明治時代	大正時代	昭和時代	米国統治時代	昭和時代	平成時代	新元号時代



奄美文化の特徴を、以下で概観してみます。

衣

亜熱帯の自然環境に適応して、芭蕉布や大島紬等の染織文化が発達してきました。特に大島紬は、薩摩藩の特産品から明治時代以降は全国に普及して奄美群島の基幹産業となり、国内外に知られています。生産量は、1972年に30万反に迫る勢いでしたが、それ以降は減少が続き、現在は4千反を割り込むまで落ち込んでいます。

食

前近代から日本では普及していない豚を食べる食文化があり、豚脂（ラード）も盛んに利用されています。保存食である豚肉の塩漬けも、「塩豚」と呼ばれて欠かせない食材です。薩摩藩統治時代には、鹿児島本土の料理の影響を強く受けながら、奄美群島の郷土料理は醸成されてきたのです。代表的な郷土料理として知られる「鶏飯^{けいはん}」も、そうした鹿児島の影響下で成立した料理であると考えられます。また薩摩藩統治時代からプランテーション的なサトウキビ栽培が行われてきたため、サトウキビ農業が現在も盛んに行われ、高品質の黒砂糖が生産されています。

1953年に米軍占領統治から日本復帰を果たすと、地場産業振興の一環として、奄美群島だけに生産が許可された「黒糖焼酎」の醸造が開始され、奄美群島の各島でそれぞれの個性豊かな黒糖焼酎が生産されています。

住む

奄美大島・徳之島を覆う森林は、先史時代から造船や建築の材料として利用されてきました。「古民家」や「高倉」は、組立分解が容易な楔^{くまび}を使用する（釘は使わない）部分組立工法（プレファブリケーション）が用いられた建築文化が発達していて、民家は2棟分棟型の独特の構造が認められます。

言語

日本語は、「本土方言」と「琉球方言」に大別されますが、奄美群島のみなさんが話されているのは、琉球方言の中の「奄美方言」になります。



三方を山に囲まれた名瀬市街地（奄美市役所所蔵）



奄美博物館民家



ウワンフヌイ（料理・撮影：泉和子）



庶民の芭蕉衣（藍染）（奄美市立奄美博物館所蔵）



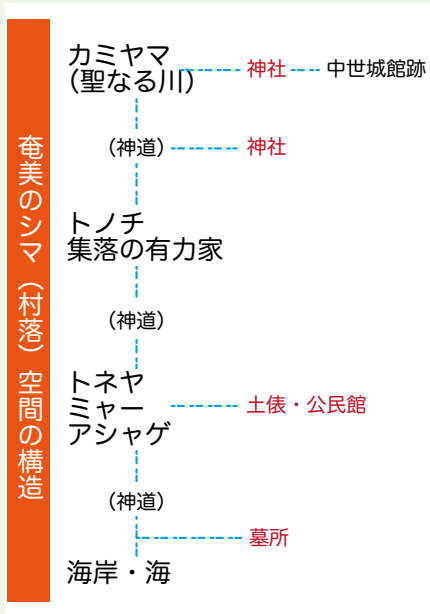
十五夜唄あしびの六調



奄美市住用町の西仲間集落に残る神道



奄美市名瀬の大熊集落のノロ祭り(フェウソメ) (冬折目)



奄美の村落空間構造 (高梨作成)

芸能

奄美群島の喜界島、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島では、男女が輪になり集団で踊る「八月踊り」(徳之島では「七月踊り」等)が、旧暦八月十五日等に各集落で行われています。また「シマウタ」と呼ばれる独特の民謡も、八月踊りと同じ分布を示しています。シマウタは、本土地域のヨナ抜き音階(ドレミソラド)や律音階(ドレファソラド)等が用いられている音楽文化ですが、沖永良部島・与論島には、琉球音階(ドミファソシド)の音楽文化が分布していて、奄美群島の中にも音楽文化の違いが認められます。また奄美群島に共通しているものとしては、祝事等が終わる際に、全員で手踊り「六調」(ろくちょう)が踊られます。

みなさんも、何かの機会に参加してみたらよいと思います。

信仰

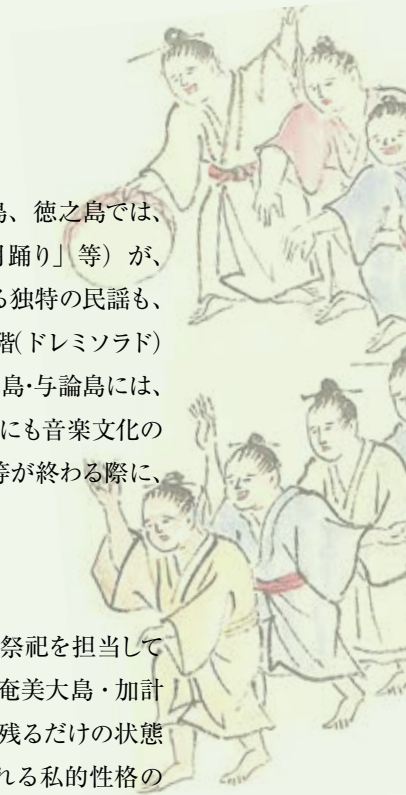
かつて琉球国に含まれていた奄美群島には、琉球国の国家祭祀を担当していた公的神女の「ノロ」を継承する家系が知られています。奄美大島・加計呂麻島を中心にノロ祭祀は続けられてきましたが、今では一部の神役が残るだけの状態となり、かつてのような祭祀は行われていません。また「ユタ」と呼ばれる私的人格の神女も多数認められます。ユタは、霊界と交信したり、霊視による助言や治療等を行うカウンセラー的存在として、大勢の人びとが相談に訪れています。生活空間の「境界」となる場所には、「ケンムン」等の妖怪が出没すると今でも伝えられていて、21世紀の現代社会でも神は身近な生活空間に宿る存在として恐れられています。

集落

奄美群島の各集落には、神山・聖泉(イジュンゴ)・神道・広場(ミャー)・神屋敷(トネヤ・アシャゲ)・聖浜(ウドウン)等の要素から成る共通した構造の集落空間が認められます。それらの要素は、集落空間の骨格となるもので、ノロ祭祀の聖地であるという重要な特徴があります。集落は、方言で「シマ」と呼ばれています。

出身者

シマ(集落)を離れて移住した方たちは、同郷の出身者が大勢いる地域で、「郷友会」と呼ばれる組織を結成していて、二世・三世等の方まで含めて会員となり、郷里と会員の親睦が図られ、絆が深められています。郷友会は、





同じ出身地域という繋がりによる組織ですが、同じ出身地域にはいくつかのレベルがあり、最小の単位はシマ（集落）から始まり、同じ校区や同じ市町村、同じ島、そして最後に最大の単位として奄美群島でまとまるようです。郷友会は、奄美群島各地の出身者が集まる奄美市名瀬に多数認められます。また明治時代以降、奄美群島から本土へ移住した方たちも大勢いるので、東京・大阪等の大都市を中心に、本土の都市部に奄美群島各地の多彩な郷友会があります。大規模なものとしては、「東京奄美会」や「関西奄美会」等が知られています。

本書は、奄美群島振興交付金による「環境文化を活用した地域振興事業」を活用し、奄美群島を訪れるみなさんに、自然だけではなく各島の文化にも親しんでいただくことを目的として制作されました。文教大学国際学部国際観光学科の海津ゆりえ先生とそのゼミ生のみなさんが、島々のフィールドワークを重ねながら、いろいろなアイデアを凝らして執筆編集されました。日本唯一の「環境文化型国立公園」である奄美群島の島旅に、そして各種研修の教材等としても、ぜひ本書をご活用いただきたいと存じます。



さあ、奄美群島の
集落を
訪ねてみましょう。



市集落

ユイの精神で繋がる、温かく、暖かい、いち

市集落は、住用湾に張り出した半島の中ほどにある、エアポケットのようにくびれた内海に面した集落です。その地形から古くから天然の良港として知られ、海上交易の商取引の要所でした。住用村(2006年に合併し、現在は奄美市)の豊富な山林資源の輸出も、ここから各地へ送られました。集落名の「市」がその由来を物語っています。

市は昔からソーラ突き漁で知られています。ソーラとはカマスサワラのこと。擬似餌(ソーラジチ)で海面までおびき出したソーラを、柄(ミョーホ)の先に取り付けた3本に先が分かれた銚(トゥギヤ)で舟の上から突きます。市はソーラ突きに適した漁場が豊富で、かつてはソーラ突き名人(ツキンチュ)がたくさんいました。

市の人々は結束(ユイタバ)を大切にしています。国の減反政策で稲作がなくなってから共同作業の機会は減りましたが、礼儀を重んじ、助け合い、譲り合う精神は受け継がれています。2017(平成29)年にはみんなの憩いの場をつくるために、子どもからお年寄りまで協力し合って広場を整地し、「サガリバナ」を植樹しました。

季節の変わり目を感じるのは「風」の名前ででしょうか。南の風を「フェ」、北の風を「ニ

シ」、東の風を「クチ」と呼び、冬が近づくとニシが吹きます。タカが渡ってくる頃の風は「タークダシ(鷹下し)」。台風は毎年のようにやってきます。激しい風と雨も2、3日耐えれば過ぎていくもの。市の人々は慣れているのです。その知恵は次の世代に伝えなければならないシマの宝の一つです。

シマを巡ってみてください。海の美しさを感じる代表的な癒しスポット、「荒崎展望台」や「高浜^{ターバマ}」などはもちろん、車で40分ほど山越えしたところにある青久集落^{あおく}へもぜひ。三方を山に囲まれ一方が海に面した絶景の中に、「むちゃ加那伝説」の悲しい物語が伝わるひっそりとした集落です。「黄金のしずく」も青久への道すがらに。黄金のしずくとは?それは行ってのお楽しみ。



ウレイガン

毎月旧暦1日・15日の満月の夜、山から降りてくるカニのことを方言で「ウレイガン」と呼びます。モクズガニで、フヤフヤを作るのが一般的ですが、その中にアカベンケイガニがいれば、捕まえて、潰してエキスを絞り「フヤフヤ汁」を作ります。冬はメスが卵を抱いているため、フヤフヤ汁が一番美味しくなる時期です。

ケインムン

ケインムンを見た人はいませんが、これまで自然が守られてきたのはハブとケインムンのおかげです。ケインムンは人を騙してナメクジを食べさせると言われています。主食は貝で、ヤギの匂いがするとところにケインムンがいるとの言い伝えがあります。



浜下れ(ハマオレ)

5月には恒例行事の浜下れがあり、豊作を祈願します。害虫を捕まえて葉っぱに包み、海へ逆手で投げます。この日は浜にご馳走を持ってきて食べたり、米搗き踊りをしたりして、集落の人々とみんなで夕方まで過ごします。



(奄美市立奄美博物館所蔵)

ハブ

自然の守り神、ハブは人には怖い存在です。ハブがいなくなるようにと願い、駆除したハブは道路に穴を掘って頭をハブのいない喜界島に向けて埋める習わしがありました。



市集落めぐり



荒崎展望台



① 高浜 (ターバマ)

波で石が削られ、浜にある石は丸みを帯びている。海難事故から身を守るための祈願場所だった。(旧 9/9)

② 森商店

50年続く小売り商店。集落の商店は以前は9店舗あったが、今は2店舗。



③ サガリバナ公園

2017年6月30日にサガリバナを植樹した。白い花とピンクの花の苗が交互に配置されている。



④ 住家の墓

薩摩藩時代、奄美大島屈指の有力者として知られていた住家の墓。市立市小中学校の駐車場が屋敷跡である。



⑤ 上村商店

昔は越次橋(コクジバシ)までサバニ船で商品を仕入れに行っていた。



⑥ シンボルツリー (戦火にあった松)

市立市小中学校の校門前にどしりとたたずむ戦争を経験した松の木。



⑦ 黄金のしずく (青久)

コケに雫ができると黄金に見える。



⑧ 石垣 (青久)

住民に「テンバ」(天場)と呼ばれている防波壁。本土復帰前は琉球政府が施工、復帰後は本土政府が施工、1955(昭和30)年3月に完成した。

荒崎展望台からは、喜界島、高浜、トビラ島、市集落、奄美空港、マッコヒジャ(向かいの海岸線)がきれいに見える。

市集落と喜界島の女神が取り合った伝説のある島で、ハブが生息していないと言われている。

昭和44年頃に開通した道

浜下れ(ムシケラシ、米搗き踊り)をすところ

諸説あるが、中世期の頃に合図や警報のための狼煙(のろし)を上げたり、避難や見張り場所だったと言われている。

一番高い所、オデーがある



① 高浜 (ターバマ)

■ 主な施設
● 水に関する場所

干潮時には潮干狩りができる

④ 住家の墓

※葬儀のとき、道路が交差するところなどに、道に迷わないように立てる6本のろうそくを立てる葬具。

葬式の際、六道ろくどうを立てる所

⑤ 上村商店



市立市小中学校

⑥ シンボルツリー (戦火にあった松)

木造の郵便局跡地

メヒルギ、オヒルギ

城郭

マツサキバナ (以前、十五夜祭りをやっていた場所) シラマゴと呼ばれる井戸があり、以前はこの井戸で若水汲みをしていた

氏神

子豚の妖怪が出ると言われている場所

「神石」が氏神として祀られている。

ヒカンザクラ

100m

↓ 青久へ (7 8)

市集落の季節こよみ



浜下れの時、みんなで輪になって砂の上に座り、隣の人に石を置きながら渡していきます。

		1月	2	3	4	5	6
風景	生きもの	チャッチャツ (ウグイス)	クッカル (アカショウビン)、アカヒギ (アカヒゲ)				
	花	メジロ、サギヤ (シロサギ)、ヒヨッシャ (ルリカケス)、ウシバト (カラスバト)、ヒュースイ (ヒヨドリ)、チュンチュン (セキレイ)、オオバト (アオバト)、クムラ (パン)、フェクサ (ハヤブサ)、クフ (リュウキュウ)	ヒカンザクラ	ハマフヨウ、サデク (ハマユウ)			サガリバナ
祭り	祭り行事	<ul style="list-style-type: none"> ● ナンカンジョッセ (1/7) ● 大工の神祭り ● 若水汲み ● 目上の人にあいさつ回り 	● 遠歩大会	<ul style="list-style-type: none"> ● 女の節句 (旧3/3) ● 先生のお別れ会 ● 卒業式 	● 入学式	<ul style="list-style-type: none"> ● 山の神祭り ● 浜下れ ● 男の節句 	<ul style="list-style-type: none"> ● サガリバナの花言葉は「幸運が訪れる」
	行事	● 夕読放送 ● 小・中学生が島口で読み聞かせを行う ● 毎月旧暦の1日・15日にお墓参りを行う (一年中)					
生業	畑	 ナンカンジョッセ バナナ、ツワブキ、パパイヤ (1年中)	タンカン、キンカン、レタス、ニンニク、ブロッコリー、タカナ、ダイコン、カブ、タラノメ	マクリ (クイナ)、ジャガイモ	サヤエンドウ、ハクサイ、ノイチゴ		サトイモ、ナス、ピーマン、キュウリ、芋
	川・海	イキャ (ミズイカ)、トホ (タコ)	ターサン、サベミナ、クモガイ、タニシ、ユミナ、サワラ	モズク	タンガ (テナガエビ)、シキリ (ナマコ)		ヤニヤ (アサリ)、ひじき、ニツヰレミナ
食	食	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒキヤゲ (おじや) ● すいもの ● 三献 ● サワラの刺身 ● ナリムチ (なりもち) ● ぜんざい 	● タンカンジュース	● フツィムチ (ヨモギモチ)	<ul style="list-style-type: none"> ● タラノメ天ぷら ● コサンダケの煮物 	<ul style="list-style-type: none"> ● アクマキ (ちまき) ● フクラカン 	● アブラゾーメン (油そうめん)
	料理				 カメノデ	 フクラカン	

7

8

9

10

11

12

カツオドリ (群れでくる)

シーギヤ (アマミヤマシギ)

サシバ

アトホ (ウ)、タントウリ (シロハラ)

コノハズク)、マンヌスト (シジュウカラ)、カンジョリ (カワセミ)、イソビス (イソヒヨドリ)、ハブ (一年中)

- 遠泳大会
- 七夕祭り

- お盆
- 十五夜



- 秋季大運動会
- 豊年祭
- オデー祭り (旧9/9)

オデー祭り

旧9月9日の午前中の満潮時に先祖を同じくする者同士が各自の決まった山腹に登り、御岳祭り・家内安全と旅中の者の安全を祈る。



- 年越し



マンゴー、パッションフルーツ、スモモ
ダーナ (タケノコ)

ドラゴンフルーツ、パイナップル

バンシロー (グアバ)

ナバ (シイタケ)、ミングリ (キクラゲ)

島ミカン

ロコシ)、ナブラ (ヘチマ)

(トコブシ)、トゥビンニヤ (マガキガイ)、ウシ (タカラガイ)、トゥリンツメ (カメノテ)、スワレ (シャコガイ)
イ)



ミキヨ (オオクチュゴイ)

- お盆

お盆

13日から15日まで朝昼夕のメニューが決まっている。

オデー祭りの供えもの

カシキ (赤飯)・神酒・七品 (7品の煮物)を重箱に入れ、シュギ (米の粉の生団子)を供え拜む。

昭和20年代初期まで金久田海岸で海水を汲み塩炊きが行われていたよ



大和浜は大和村の中央、奄美大島の北と南の中間地点、さらに鹿児島と沖縄のちょうど中間にあります。奄美群島が「道の島」と呼ばれていた頃から、本土（大和（内地））や琉球、中国との交流の中継地でした。水や燃料の補給、風待ち、砂糖の積み出しなどの港として利用されてきました。役人も遣唐使も大和浜を経由して次の地へ渡っていったのです。そのため、役人や豪族も多く住んでいました。大和（内地）の役人がいたことから土地の名も大和村になりました。後に奄美大島のなかでも絶大な力を持った豪族の「和家」と、「太家」は、大和浜の二大「ユカリツチュ」（この地を治める者）でした。大和浜集落の中心には和家の屋敷跡があります。今では石垣が残るだけですが、よく見るとサンゴ（ツブル石）を切り取ったもので造られています。築造のために琉球から職人を呼んだと言われ、その権勢がしのばれます。

大和村は、日本でサトウキビの苗を初めて植えたと言われる場所です。大和浜出身の直川智が慶長年間に琉球へ渡ろうとして漂着した中国から製糖技術を習得し、こっそり持ち帰った苗を戸円磯平に植え始めたことから始まったとされています（『大和村誌』）。集落の外れには、穀物倉庫として利用されてきた群倉（ボレグラ）が5棟建っています。



ユリジマ 大和浜集落 (1968 (昭和 43 年)) (福岡和廣氏撮影)

群倉は、高床で風が通り抜け、貫木をはずすとたやすく倒すことができ、火災の時など中の物を取り出しやすい構造と、足掛かりをなくしてネズミの侵入を防ぐ機能性をもつ、まさに知恵が結集した文化遺産です。海岸に面した土地は、実は埋立地です。過去に3度にわたる改修工事を行って次第に面積を広げました。住宅地になるまでは、畳の原料のイグサを育てる畑として利用されていました。現在の碁盤目の道路は、九尺二間の家を担いで移設できるようにと和家が計画したものです。行き止まりになるT字路には突き当たりには「石敢當」が置かれ、魔除けの役割を果たしています。

【寄り島（ユリジマ）】 もともと沼地であった所が、川からの砂、海からの砂、いろいろなものが寄り集まって出来た島のことを言います。

滝川山 (たきのこやま)

麓には湧き水があり、かつては暮らしにはならない生活用水として使われてきました。今も十五夜豊年祭などの行事で利用されています。人々は滝川山を神山として守ってきました。山の木は伐ってはならぬとされ、今では胸高直径50センチ以上のオキナワウラジロガシが100本以上の群落をつくり、中には1メートルを超す巨木もあります。「大和浜のオキナワウラジロガシ林」として2007年に国の天然記念物に指定されました。急な山道を登り、ふりかえると大和浜集落を眼下に一望することができます。

十五夜豊年祭

十五夜豊年祭は毎年盛大に催されます。昼12時に神山に水を汲みに行き、神様にお供えし、日が暮れて土俵の周りで八月踊りが始まると、男女の掛け合い唄に合わせてチヂン(太鼓)が叩かれ、輪になって踊ります。男が踊る棒踊り、足踏み(アシナレ)と女が踊るなぎなた薙刀踊りがあり、薙刀踊りは昔、種子島の人が奄美に住んでいた時に大和浜の人に伝えたものとされています。娯楽がなかった時代は、一年一度のお祭り騒ぎとして、男女ともに踊り明かしたものでした。踊りの名人がスターなのは今も昔も同じです。

スモモ

大和村名産のスモモは本州のものとは違い、花螺李(ガラリ)という台湾産のもので、昭和25年(1950)から栽培されています。果肉はワイン色に近い鮮やかな赤で、生果、ジュース、ジャム、酒などどんな加工品でも美味しくいただけます。大和村は日本一のスモモの生産量を誇ります。大和浜の生産農家も「大和の宝を育てている」と胸を張っています。



大和浜のことは

大和浜の人々は、思慮深くおとなしく、言葉遣いが丁寧な事で知られています。他の地域で「いい天気だりよや(いい天気だね)」というところ、大和浜の人々は「いいひゅうりなりしよちゃや(いい日和ですね)」と言います。これは豪族や役人、商人など多くの人が出入りし、支配階級がはっきりしていた歴史によるものかも知れません。

大和浜集落めぐり

奄美大島：大和浜



1 民宿大和荘
海が目の前にあり、奄美の素材を使った女将さんの手料理を味わい、ゆっくりした時間を過ごせる。



2 オキナワウラジロガシ林
胸高直径1メートルを超える巨木を筆頭に直径50センチ以上の大木が100本以上斜面に群生している。



3 滝川(タキノコ)山
神山とも呼ばれている。集落の水源地だった。滝川山から流れる水は豊年祭などの特別な行事に使われる。



4 ハブ棒
山や集落内のハブ対策としていつでも持っていけるよう、集落のいたるところにある。



5 和(ニギ)家屋敷跡
大和浜集落の豪族の屋敷跡であり、現在は石垣のみが残っている。



6 群倉(ボレグラ)
奄美独特の高床式倉庫である高倉の集合体。昔は群島のおちこちで見られたが、現在は大和浜に5棟残るのみ。



7 大和橋(ミチャ橋)
現在の橋になる前は、土で作られていて、台風で流されると作り直していた。



8 開饒神社
サトウキビの苗と黒糖製造技術を慶長15年頃に中国から持ち込んだ直川智翁を祀った神社。高千穂神社を合祀する。

3 滝川(タキノコ)山



オキナワウラジロガシ林は国指定天然記念物

神山として伐採を行わず、豊かな森が守られていたため、山すその群倉に台風などの強風が当たることがなかった

2 オキナワウラジロガシ



オサダ 長田家(長家)

ハブ棒
4
ニギ 和家屋敷跡
5

フツ 太家

キスキ 城家

トネヤ

ナベジ 鍋島家

● 商店

鹿児島・山川港との行き来があった

長い黒糖庫があった

今より川幅もあり深かった

大和川

大和橋(ミチャ橋)があったところ

昔は水田だった

開饒神社・高千穂神社

8

7 大和橋(ミチャ橋)

● 商店

バス停(大和浜)

● 商店

バス停(恩勝)

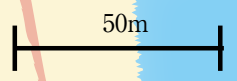
藩政時代の黒糖積出港

大和郵便局

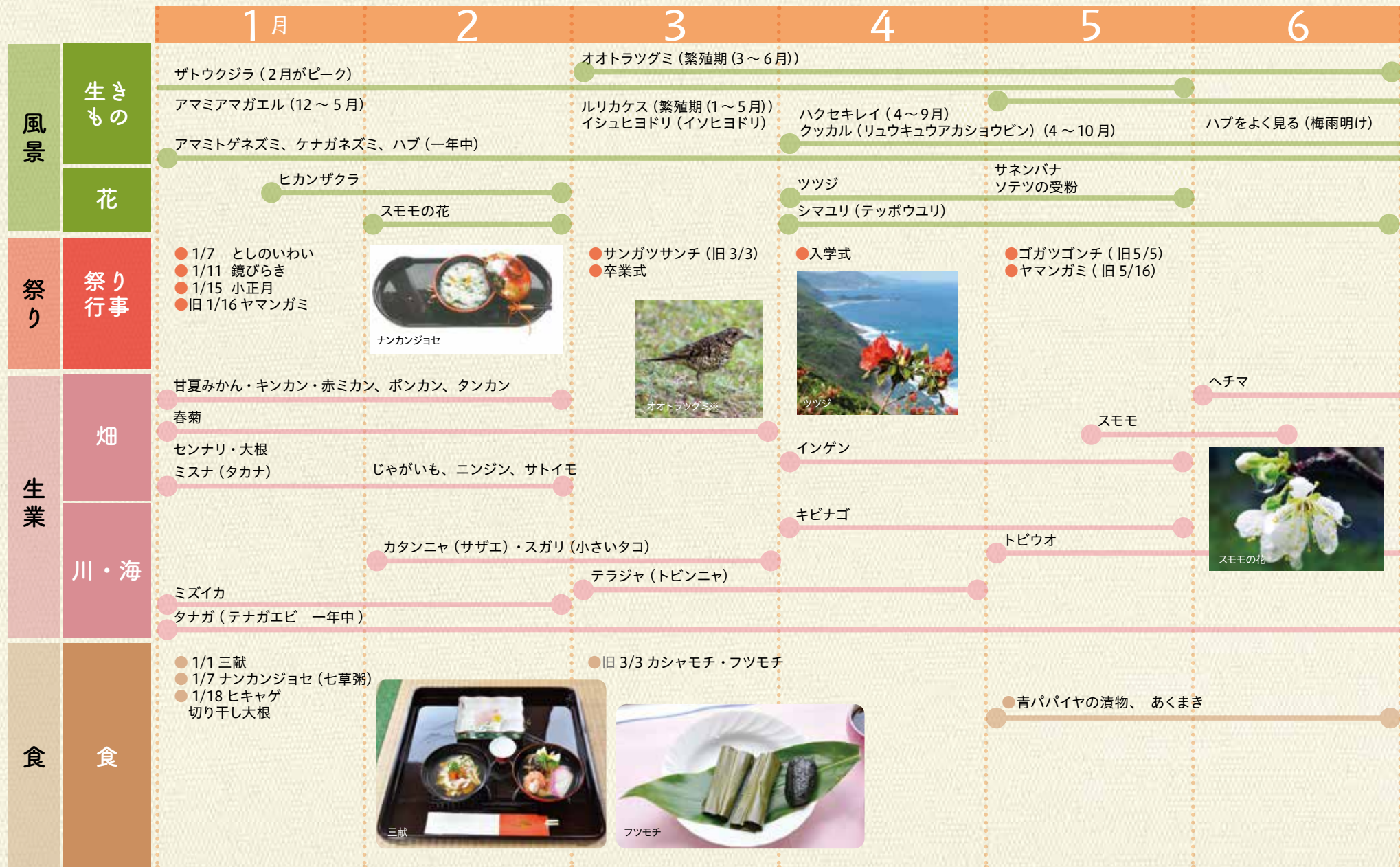
平成10年の埋立地

大和浜5家
大和浜には豪族が5家あり、他の民は田畑を耕す“ヤンチュ”と言われる人が多かった。支配階級もはっきりしていた。

- 祭りに関する場所
- 主な施設
- 豪族の敷地



大和浜集落の季節こよみ



7

8

9

10

11

12

ヒヨドリ (10 ~ 4月)

ザトウクジラ



アジサシ※



ザトウクジラ※

アジサシ

ノギク

ソテツの実

イノシシ
(11/15-3/15 狩猟期間)



豊年祭土俵入り

- 夏祭り (ひらとみ祭り)
- お盆 (旧 7/13 ~ 15)
- 大和浜の祭り

- 十五夜豊年祭 (旧 8/15)
(棒踊り・なぎなた踊り・
八月踊り)
- 十五夜前 シバサシ

- 村民体育大会
- ヤマンガミ (旧 9/16)

- ドウンガ

- 忘年会
- ひらとみ朝市

棒踊り練習 (8月末-9月中旬)



なぎなた踊り



棒踊り

トマト

ゴーヤ

シマウリ ドラゴンフルーツ

マンゴー

トビイカ漁・シラヒゲウニ (7/1解禁 (8月旬))

バカイカ

- みき、ひやがゆ (暑い時)

グアバ・バンシロウ

里芋・パイナップル・タイワンチク

島みかん (ギョーミカン)

マツタケ・ヤマイモ

ツワブキ・ボンカン・ミスナ (タカナ)

ヤマイモ
サトイモ

シイの実・シイタケ

ミズイカ

イセエビ (8/21 ~ 4月)

エラブチ

カワハゼ (寒い季節)

シイラ、カツオ、シビ (キハダマグロ)

- かしき (赤飯)

- ワンフネ (豚の骨)
- ツワ



祭りの稽古

高倉は脱穀した粳と翌年の種粳の保管庫でした。
風通しの良い水田近くで、さらに火災などの災害から
食糧を守るようにと、集落から離れた場所に建てました。
高倉が群れになって建っているので、
群倉 (ボレグラ) と呼ばれています。



うけん うけんそん 宇検村 宇検集落 歴史景観の里 宇検

宇検は、奄美大島の南西部、^{やけうち}焼内湾口にあります。波静かな焼内湾は風の日には湖のように湾の対岸に横たわる無人島の枝手久島を映し出します。天然の良港として海上貿易の重要港だった宇検には、元禄元年から199年間役場があり、役人の^{いかり}碇家が住んでいました。中国との交易も盛んで、マーラン船（中国のジャンク船）が使っていた碇の一部が今も残されています。枝手久島と宇検集落の間の海底からは、12世紀末～13世紀初めにかけて中国・江南地方で作られた青磁や白磁の碗や皿、天目茶碗など数千におよぶ陶器の破片が発見されました。「倉木崎海底遺跡」と名付けられて研究が進んでいます。

1902（明治35）年から1968（昭和43）年までの67年間、鱈節生産組合の「金吉丸組合」が操業し、宇検のみならず奄美大島でも最大級の産業として栄えました。今はクルマエビの養殖が盛んで、恵まれた海洋環境を生かした「海洋牧場方式」によって天然ものに比肩される良質のクルマエビを生産し、粗放型養殖では日本一の生産量を誇っています。

宇検の人々は様々な歴史を包みながら生きてきた先祖を敬い、シマの文化に誇りを

持っています。多くの歴史遺産とともに、これからも受け継ぎ、伝えたいと願っています。



フノシ 船越海岸

クラキ崎を東にまわると、800メートルも続く真っ白な砂浜の船越海岸があり、住民の憩いの場となっています。大潮の干潮時にはリーフの中からマイクロアトールが顔を出します。マイクロアトールとは小さな環礁のこと。長い時間をかけて形成されたサンゴの群体です。



ケンムンとジンマル

宇検集落には足が長く河童のような姿をしたケンムンと、子豚のような姿をしたジンマルがいます。要注意はジンマル。「ジンマルに足の間を通られると股が裂けてしまう」という言い伝えがあり、ジンマルがいる石の横を通る時は、足をクロスして歩く「あでいよ」で通らないと股の間をくぐられてしまう。なおケンムンに出会ってしまったら芋畑に逃げる。ケンムンは長い足が引っ掛かって歩くことができないからです。

言葉の伝承

文化の根元には言葉があります。集落内で男女で結婚していた時代は、シマの人々はみな同じ島口（方言）を使っていました。しかし1950（昭和25）年頃からシマの外との交流が増え、次第に島口を使う人も減ってきました。島唄や八月踊りは方言で歌われますが、子どもたちに伝えていくことが課題です。宇検の言葉は雅な言葉遣いや話し方が特徴です。目の前の海や波の穏やかさに合わせて自然に優しい口調になったからと考えられています。

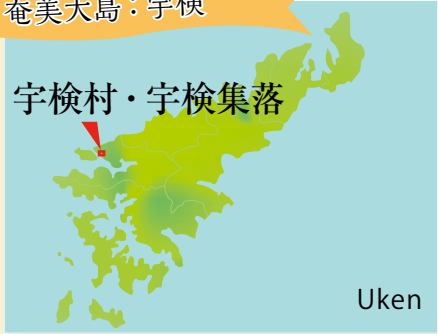
お墓

宇検集落のお盆では、お墓を全部回り一つ残らずお線香をあげます。これを“迎え”“中送り”“送り”と3日間毎日行うのです。この習慣は、奄美の中でも宇検だけに残されています。中送りとは、お盆の間に家に帰ってきたご先祖様に、「あなたのお墓はちゃんとありますよ」と知らせるために行う行事です。お墓は集落を見下ろす高台にあり、人々はいつも見守られながら暮らしていると感じています。

宇検集落めぐり

奄美大島：宇検

宇検村・宇検集落



1 檀那墓
薩摩藩統治時代、島の行政をしていた役人のような位の高い人たちのお墓。



2 高千穂神社
奄美大島に13社建てた神社のうちの一つ。海が見える絶景ポイント。



3 火番小屋
昔の火の見やぐら。1日交代で火の見をしていた場所。入り組んだ海の景色がよく見える。



4 アシャゲ
祭祀を行っていた場所(現在はノロはおらず、区長が行っている)



5 ジンマル石
足をクロスして歩く(あでいよ)で通らないと、ジンマルに足の間を通り抜けられる。



6 碓石
12、3世紀ごろに中国との交易があったことを証明する船の碓。村の生涯学習センターにもうひとつある。



7 農村小唄の碑
昭和23年、全国の地域振興のため募集された歌を作詞した宇検出身者を奉り建てられた記念碑。



8 サクラツツジの群生
自然にできたもので、2月はじめに200本ほど開花する。群生で生えているのはここだけである。

廃仏毀釈の際に、高千穂神社の宮司さんが仏の首を切った史実のある場所

ハマッグワ (首無し地藏)



対馬丸慰霊碑
船越海岸のそばには2017年に建立された「対馬丸慰霊碑」があります。太平洋戦争中、那覇から本土へ向けて疎開途中の子もたちが乗った「対馬丸」が米潜水艦の魚雷を受けて沈没しました。犠牲者の多くが船越海岸に流れ着き、宇検の人々は懸命に救助に当たりました。碑はこの痛ましい事実を後世に伝え、恒久平和を願い、建立されました。



うけん 宇検村
宇検集落の季節こよみ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
風景	生きもの	アマミノクロウサギ、シシ、アオバト、シーギャ(ルリカケス)、メジロ、ハブ(一年中)			オオゴマダラ、アサギマダラ	クッカル(リュキュウアカショウビン)、ウシュンドリ(カツオドリ)、ウシュトウマル(イソヒヨドリ)	
	花	ヒカンザクラ サクラツツジ リュウキュウノスミレ アロエ(イシャイラズ)、ニギヤナ、ウッコギ(ガジュマル)、ガジュツ(黄ウコン)、ダラギ(一年中)	スモモの花、タラノメ、長命草		タイワン(ヤマツツジ) 春ウコン	クガ(キウイの一種)	サネンバナ、ギマ、島バナナ
祭り	祭り行事	● 1/1 新正月 ● 拝賀式 ● 1/2 大工祝い ● 1/4 成人式	● 旧正月 ● アシャゲの祭り				
	畑	がっきよ(らっきょう) トータブル(かぼちゃ)	みづな、食用アロエ タンカン・ヤマモモ フヌガブ(ニンニク)	ほうれん草			
生業	川・海		ヌリ	オオサ	スリン(キビナゴ)		スイカ
	川・海	ウブス(カツオの仲間)、メアジ、イワシの小魚、ブルクマ、エラブチ、ヒラアジ、ヒラニザ、ダツ(一年中)	カタミニヤ(サザエ)、スガリ(タコ)			ビル	ナス スノリ(モズク) イギス
食	食	● 1/1 三献、ツワブキと豚の煮物	● ティバツシャ(ツワブキ)	● フティムチ ● カシャムチ ● ウナリ ● ニンニク	● ムギックワシ ● 黒砂糖	● らっきょう ● アクマキ	
	食	● 切り干し大根(一年中)	 ツワブキと豚の煮物		 黒砂糖		 らっきょう

7

8

9

10

11

12

ビーチバヒュ (サシバ)



サギ類

月下美人
ティーチギ (シャリンバイ)
イチヨビ (野イチゴ、山イチゴ)
オウベンクソ (クワの実)
キャーの実 (ヒトツバ)

ガジュツ (秋ウコン (紫ウコン))



ドラゴンフルーツ
パンシロ (グアバ)
ナブラ (へちま)

マンゴー、ウム (サトイモ)
シブリ (トウガン)
ニギヤウリ (ゴーヤ)

ジャガイモ
サツマイモ

- ドウンガ
- アラセツ
- シバサシ (八月踊り)
- 敬老会

●運動会

グルクン (アカウルメ)、マンタ

ガツキョ (らっきょう)

トータブル (かぼちゃ)

コーシャ、ポンカン、ハッサク、ボンタン

レモン、アマナツ、キンカン
デアクネ (大根)

車エビ

- ティバシャ (ツワブキ)
- ワンフネ (豚足)
- としとりもち



島口で、ハゲという感嘆詞は、
「びっくりした」とか「わぁ」という意味。



集落の歴史を伝えることを
とても大切にしてきました。

須子茂集落は、奄美大島の南に横たわる^{かけろまじま}加計呂麻島の西部にあり、外洋に面しています。美しい海岸と穏やかに打ち寄せる波の音や風景が自慢で、海辺からは天気が良いければ須子茂離れ、徳之島、与路島、ハミヤ島が一望できます。帰り着くとほっとするシマです。

奄美と琉球の航路の重要な中継地で、琉球・奄美に伝わる古くからの行事が近年まで多数残っていました。集落にはトネヤ、アシャゲ、カミミチ、力石、厳島神社、砂地の集落道などが今もあり、琉球時代からの風景を残しています。集落の人々はシマの伝統や文化、景観の保全に力を入れています。1880年に開校した小学校（2018年廃校）や奉安殿、弥生時代の遺跡など今でも見ることができる遺産もたくさんあります。

かつてはカツオ漁が盛んでした。砂糖や塩は自分たちで作っていた昔、シマでの暮らしは決して楽ではありませんでした。だからこそ人々は元気で仲が良く、「ユイ」という助け合いの精神を大切にしています。旅人のことも大事にするのが須子茂ならではの。集落のアシャゲやトネヤはいつでも旅人が休憩場所として利用することができます。

須子茂の祭りは彩り豊かです。旧暦8月15日の豊年祭は相撲をとったり余興をしたり、

お年寄りも一緒になって一日中楽しく過ごします。豊年祭のあと7日間毎夜踊って遊んだものでした。生垣を辿りながらのシマ歩きは気持ちいいもの。公民館には須子茂の資料がたくさん置かれています。疲れたらアシャゲで一休み！



アシャゲ



集落風景（昔の写真）
須子茂（昭和50年7月3日）
（瀬戸内町役場所蔵）



アシャゲとトネヤ

シマの中心にはミヤーと呼ぶ広場があります。宗教儀式を行う大切な場所で、ミヤーには、稲の祭りの祈りの場となるアシャゲ（壁のない骨組みの建物）と、神様を送迎するトネヤ、立石のイビガナシがあります。須子茂にはアシャゲとトネヤが二か所にあります。かつて集落の中央を横切るように川が流れていたため、その東西に置いたのです。西側をナハマ、東側をアナタリと呼びます。祭祀を仕切ったのはノロと呼ばれる女性でした。ノロの祭祀はナハマで始まりアナタリへ移動して行われました。

生垣

須子茂を訪れる誰もが驚くのが、生垣の美しさです。背丈を切りそろえて家々を囲み、守っています。潮風に強いゲッキツやギムチェ（竹）などが使われ、防風や敷地内の温度調節の役割も果たしています。行事の前にはみんなで手入れしたものでした。第3回「かごしま・人・まち・デザイン賞」景観づくり部門で優秀賞も受賞した須子茂自慢の一つです。



泉の水

2018年に廃校になった須子茂小学校の裏には、オボツ山（神山）から湧き出す泉があり、涸れたことがありません。台風や嵐が来ても水に困ることがなく、須子茂は昔から水が豊富なことで知られていました。住み良いシマと人々が感じる理由の一つです。



祝い料理

祝いの時は食材の数が奇数になるように選びます。マムニリ（豆煮）、カシキャ煮（ハナフノリの煮物）、昆布、山芋、豚、魚、豆腐の7種類など、家々で工夫して盛りつけます。砂糖や酢、味噌は自家製でした。味噌は秋の涼しい時に一年分を作りました。

須子茂集落めぐり

カロウホ山

- 祭りに関する場所
- 主な施設
- 並木
- 美しい生垣



1 デイゴの木

須子茂小学校の入り口と校庭の真ん中にある立派な木。樹齢150年くらい。



2 泉

神山のすそから湧き出る泉。須子茂小学校の裏にあり、昔からみんなの飲料水として使われている。



3 生垣

昔から大切にされており、普段から協力して手入れが行なっている。



4 トネヤ

アシャゲとあわせて祭祀をつかさどり神様の送迎をする祭場。集落にはトネヤが2つある。



5 アシャゲ

集落の中心にある広場にある。神を招請して祭事を行う場所。集落で資金を出し合って再建した。



6 すずみ台

海辺に設置されており、海を一望できるデッキ。バスを待つ間にのんびり海を眺めるのもおすすめ。



7 イビガナシ

アシャゲの隣に建っている石灰岩の自然石で、集落を見守っている神様。



8 グンギン様

秋葉権現で集落を守り続ける火の神様。

仲間川

町立須子茂小学校 (廃校)

母と子の像

奉安殿

1 デイゴの木

2 泉

1 須子茂小学校 百周年記念碑

国の登録有形文化財。天皇陛下の御真影などが納められていた



オボツ山



オボツ山とミヤーとグンギン様を結ぶ神様の通り道。集落の人に大切に守られている

カミミチ

3 生垣

消防団車庫

お墓

海水の汲み上げから炊き上げ、検品から袋詰めまで、約10日かけて作っている

須子茂公民館

トネヤ

グジヌシの屋敷跡
センダンの木

ミヤー：アシャゲや土俵、トネヤ、イビガナシなど宗教的に重要なものが集まっている神聖な広場

アシャゲ

6 すずみ台

バス停 (須子茂)

5 アシャゲ

7 イビガナシ

巖島神社

海上の安全を祈るために寛政のころ建立された



2019.2.17に再建

トネヤ
カ石 (一太郎石)
アシャゲ

弥生時代の遺跡が発見された場所

カくらべにも使われたというカ石



tiki coffee

イヌマキの並木

8 グンギン様

アナタリ川

100m

加計呂麻島：須子茂



瀬戸内町・須子茂集落

Sukomo

すこも 瀬戸内町
須子茂集落の季節こよみ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	
風景	風	ミーニシ (北風)				ナガム (長雨)	アラベ (南風)	
	生きもの	ハブ (一年中)						
	花	ヒカンザクラ	ヒカンザクラ	スモモ	スモモ	ヤマモモ、ノボタン、グマ (グミ)	デイゴ	
祭り	祭り行事	<ul style="list-style-type: none"> ● 1/1 拝賀式 ● 墓参り (毎月旧1日、15日) 		<ul style="list-style-type: none"> ● 潮干狩り (旧3/3 サンガツサンチ) ● ウムケ (旧3月初めの壬の日に神様を迎える) 		<ul style="list-style-type: none"> ● オーホリ (旧4月初めの壬の日に神様を送る) 		
	畑		ジャガイモ					
生業	川・海	ツワブキ、ハヌス (さつまいも)	タンカン (2/1 解禁)					
	川・海	パパイヤ (通年。漬物にするとおいしい)						
食	食	アオ・アカウルメ	アオサ					
	食	<ul style="list-style-type: none"> ● 正月料理 (三献)  <p>(瀬戸内町役場所蔵)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コウシャ (山芋)、豚骨 ● マムニリ (豆料理 黒や白の豆を炊く) 	 <p>ヤギ汁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧3/3 フティムチ (よもぎ餅)  <p>フティムチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コウシン (はったい粉で作る餅) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5/5 サンキラ餅 (ヨモギでひし形に作った餅をサツマサンキラの葉で包んだもの) 		

7

台風、クチ風（東風）

8

9

10

11

12

アラベ（南風）

サシバ



サシバ



ハゼノキ紅葉

ハゼノキ紅葉

ツワブキ

シイの実



（瀬戸内町役場所蔵）

- 十五夜豊年祭、敬老会
（旧 8/15 頃）
- 厳島神社祭
（旧 9/9 クガツクンチ）

パッションフルーツ グアバ（バンシロ）

マンゴー

アボカド

島みかん

ボンカン

ブダイ

アオ・アカウルメ

- ウムツキ（サトイモを搗いたもの）
- カシキ（赤飯）



カシキ

（瀬戸内町役場所蔵）



みんなで集まると、祭りの唄が
飛び出すよ。祭りは楽しいね。



- 年越し餅

龍郷町の最南部にある中戸口集落は、戸口(トウグチ)集落を2つの河川(大美川・戸口川)で三つに分けたうちの一つの集落です。戸口集落は下戸口(ティンゴ)、中戸口(ナカホウ)、上戸口(ウチブクロ)の三集落から成り立っています。

「戸口」という地名は海からの入り口という意味です。戸口は南東交易と平家伝説の地とされています。平資盛が喜界島に渡った時には、戸口が喜界島と奄美大島の航路の中継地でした。上戸口の「行盛神社」は資盛に続いて奄美に渡ってきた平行盛を祀る神社で、行盛は中戸口に城を構えていたとされています。下戸口の丘の上にある「戸口ヒラキヤマ遺跡」はかつての平家の城跡で、後に荒れ果てていたこの地を西郷隆盛が畑にしたことからヒラキヤマと呼ばれるようになりました。畑からは今も、南宋・元・明初期の青磁、白磁、須恵器などが出土します。

龍郷町は大島紬の発祥の地として知られ、古くから染め織りの町として栄えてきました。大島紬は手作業で仕上げられ、戸口集落でいくつかの工程を見ることができます。大島紬の起源は定かではありませんが、西暦661年とも言われ、奈良朝710年のころとも伝わっており、東大寺や太宰府に献上されていたともいわれています。ソテツをイメー

ジした「龍郷柄」は、大島紬の代名詞的存在です。



大島紬



八月踊り

「踊り」八月踊り (さんまてぬココエー)

「奄美の八月踊り」は集落によって色々なスタイルがありますが、その基本は集落内の人々が来年も豊かな収穫に恵まれて平穏に暮らせるように、神々に感謝を捧げ、祝福し合うことだと言われています。戸口集落ではテンポの速い「さんまてぬココエー」を八月踊りの最後に踊ります。360度渦を巻くように回転しながら踊るのが特徴です。9月の十五夜に行われる相撲大会では、五穀豊穡を祈る「中入り」という男女の掛け合いのある踊りを踊ります。まず男性がお酒やお米を担いで土俵の周りを踊り、そのあと女性が踊り、昼時から月が上がるまで通して踊ります。

※10月には集落の方々が集まり「種下ろし」を行っています。これには子どもから大人まで参加し、集落資金となっています。子ども達は夏休みに入ると練習して八月踊りを披露してご褒美をもらい、子ども会の活動資金に充てています。

カミミチ

戸口の平松付近からヒラキに沿って上戸口の行盛神社まで続く道のことで、昔、平家の侍たちがこの道を利用して行盛神社へ通っていたと伝えられています。この道をふさいだり邪魔なものを置いたりすると、神あたりに合うという言い伝えがあります。

三献 (さんごん)

三献は元旦に食べるお正月料理のことです。一の膳は赤いお椀に入ったお吸い物で、お餅、エビ、卵、しいたけなど奇数の具を入れます。二の膳は、海が近くタコがよく取れるので、お刺身です。三の膳は、黒いお椀に入ったかしわ汁です。そして、三献の真真中に塩盛、昆布、魚が置かれます。魚と昆布を塩につけて食べます。一年の無事を祈って食べる節目の料理です。

泥染め

◎ テーチ木染め

テーチ木(車輪梅^{しゃりんばい})の枝を細かく割り、大きな釜に入れて煮立立たせてできた赤い汁で染める。

◎ 泥染めが黒くなる理由

テーチ木に含まれるタンニン酸と、奄美大島の泥の中に多く含まれる鉄分が化合して、黒色へと変化する。奄美大島の泥田に多くの鉄が含まれていることから生まれた染め物である。

◎ 泥染めの手順

- ①染める生地にも模様を付けるため、絞りなどの下準備をする。
- ②生地を、テーチ木の汁に浸けながら揉みこむ。
- ③石灰水の中でもみ洗ひする
- ②と③を5～6回繰り返す
- ④十分に色がついたら、脱水する。
- ⑤泥の中に生地を入れ、泥を揉み込み絞る。何度も繰り返す。
- ⑥水ですすぐ
- ⑦完成!



中戸口集落めぐり

奄美大島：中戸口

龍郷町・中戸口集落

Nakatoguchi



1 高倉
集落に唯一残る高倉。



2 マツンシャ
「首切りブタ」の言い伝え。暗くなると首のないブタが足の下を通るから早く帰りなさいと言われる。



3 戸口厳島神社
ヒラキ山遺跡の丘の中腹にあり、八本の手を持つ菩薩が祀られている。



4 アカギ巨樹
戸口小学校校庭に立つシンボルツリー。



5 神道
平行盛が通った道とされている。川から行盛神社まで続いており道をふさぐと神あたりにあうと言われている。



6 肥後染色
泥染体験ができる。発酵させているため独特な匂いが印象的。



7 金井工芸
本場奄美大島紬の泥染めをはじめ天然染色を行う。テーチ木を採取し染料を作り、様々な分野からのニーズに応える天然染色を行っている。



8 行盛神社
1185年、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の一族は南西に落ちのびたと言われている。行盛は戸口に城を築いた。それぞれの敵の襲来を警戒したと伝えられている。



海を一望できる小高い丘で、かつて平家が城を築いたと言われる。丘の中腹には厳島神社が祀られている

戸口厳島神社



かつて田んぼの水を溜めていた

中戸口公民館

戸口川

八月踊りを踊る

6 肥後染色

バス停(上戸口)

上戸口公民館

7 金井工芸

8 行盛神社

1 高倉

2 マツンシャ

4 アカギ巨樹

5 カミミチ

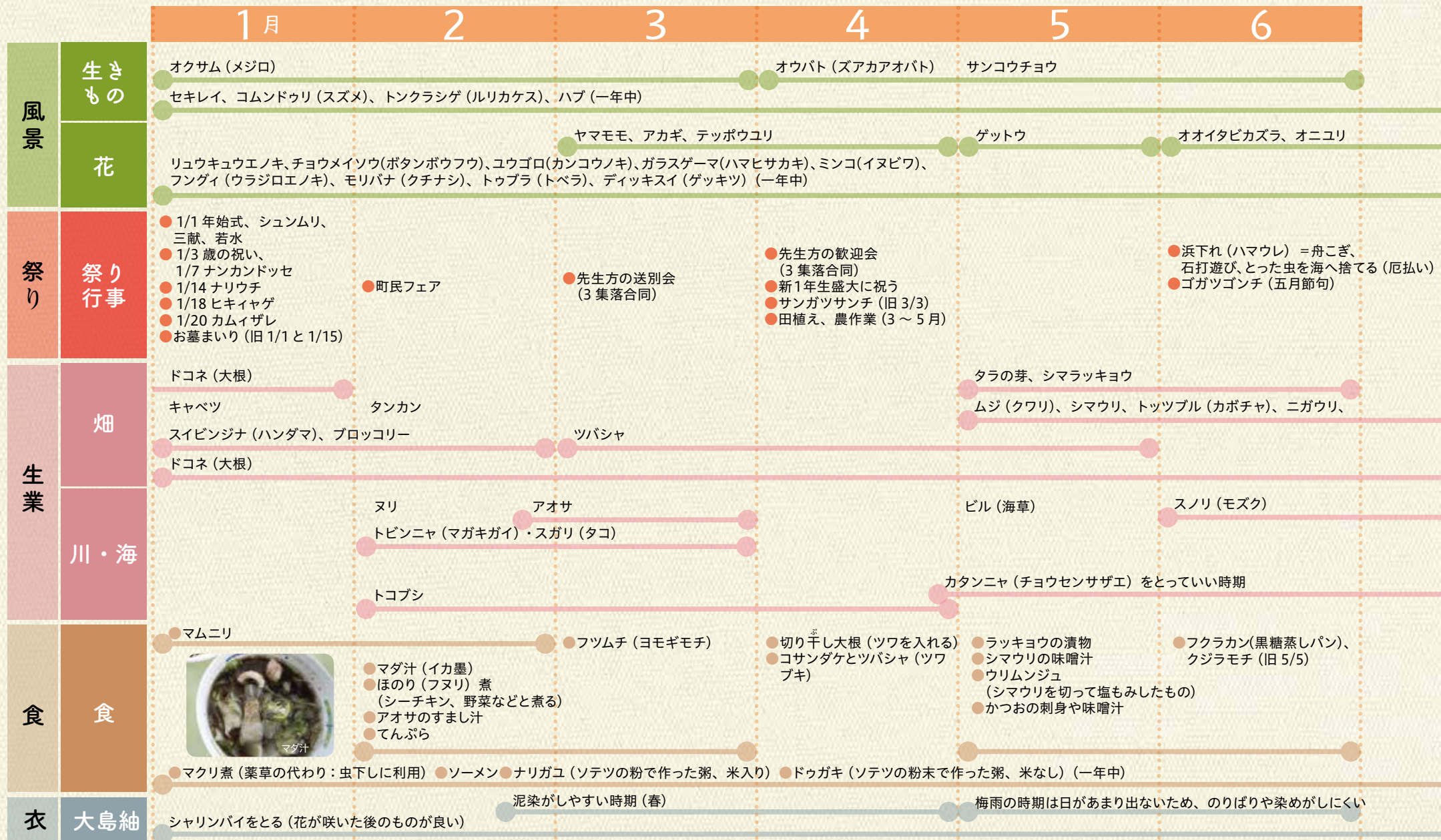
戸口簡易局

祭りに関する場所

主な施設

100m

中戸口集落の季節こよみ



7 8 9 10 11 12

リュウキュウアカショウビン



サンコウチョウ

●シキヨマ

サガリバナ

- 七夕(旧7/7 盆の一週間前)
- お盆料理を作る(旧7/13~7/15)



トクラシゲ(ルリカサス)

- 十五夜(旧8/15に近い日曜)
- ミハチガツ=ツカリ日→アラセツ→シバサシ→トゥンガ(旧8月最初のひのえの日)



オスのイソヒヨドリ

- 運動会
- 種下ろし(旧8月)
- カシャ餅を作る

イソヒヨドリ、ヒヨドリ

ツワブキ



シャリンバイ

マキッコ (ささ鳴きする小さいウグイス)
サギ類

パッションフルーツ

ナス、ピーマン、オクラ、シブリ(トウガン)、サツマイモ

ミチビキ(マツナバ)

ドコネ(大根)

フル(ニンニク)

グアバ(バンシロ)

島ミカン、シノミ

スノリ(モズク)

サワラ

ハーズン(ハタ)

カツオ

マンビキ(シイラ)

イザリ(夜)

●フルイキ(ニンニクの葉・豚・こんにゃく・豆腐など)、たまり漬け ●ウワンホネ(豚肉)の煮物 ●ウワスイムン(豚の汁)

ニガウリの酢漬け、ニガウリの味噌炒め(豚肉も入れる)、ヤギ汁、豚汁のシブリ入り

- タナガ(テナガエビ)の天ぷら・炒め・煮物
- ヤギ汁

- ミキ(旧8/15)もち米の天ぷら、赤飯
- マツナバ(ミチビキ)(キノコ類・松茸に似ている)の天ぷら、焼きもの

●長命草の天ぷら

●シシ汁、焼きジシ

●カシャモチ(種おろしの日に作る)

泥染がしやすい時期(夏・秋)

喜界町 志戸桶集落 「機会島」 この島には溢れるほどの様々な機会がまっています。

地理的に奄美群島内で最も若い喜界島。誕生してからまだ10万年しか経っていません。島全体が琉球石灰岩に覆われ、「サンゴ礁段丘」という稀有でダイナミックな地形の喜界島は、研究者でなくとも探索の魅力に富んでいます。志戸桶がある島の北部は、地質学者によれば7500年前以降に隆起したエリアにあります。

志戸桶は平家とは深い関わりのある地として知られています。壇ノ浦の戦いに敗れた平資盛は、手勢200余名を率いて奄美大島へ向かいましたが逆風に遭い、1202年に現在の志戸桶海水浴場（ウチニヤードゥマイ）に漂着しました。上陸して地勢を調べ、志戸桶と佐手久の境にある増花田に居城を構え七城と称しました。菅原神社は平資盛らが無事漂着したことを感謝し、また一門の武運を祈願して奉った神社であり、昔はこの神社に来る前には海で手足を清めてから行っていたそうです。

志戸桶の人々は先祖を敬い、自然・伝統・文化を大切にしてきました。そのため先祖代々続く墓や聖地が数多く残されています。1年を通して様々な行事があり、どの行事も子どもから大人まで参加して、交流をととても大切にしています。また、行事にちなんだ特別な料理があります。普段は粗食で、行事はご馳走を。食は、祭りの楽しみの大

きな要素です。

夏から秋にかけては、志戸桶や島のいたるところで天日干しをしている白ゴマを目にすることができます。秋口がゴマ収穫の最盛期で、別名「セサミストリート」とよばれる光景は島の風物詩となっています。喜界島では約100年前からゴマの栽培に取り組んでおり、白ゴマの生産量は日本一。強い風味が特徴で、ゴマ菓子やドレッシング、ゴマ油など、加工食品もたくさんあります。ぜひシマ歩きガイドと一緒に、“よんよーり（ゆったり）”と巡ってみましょう。季節季節の美しさや美味しさに会えますよ。



シバサシ

シバサシは「シチウンミ」の日から数えて5日目の日に行います。お墓の周りで早朝から宴会を行います。夜になると太鼓をたたき、各家を回る習慣がありました。この日は新調した服でおしゃれし、昔から伝わっている料理や果物をお墓にお供えます。



オオゴマダラ

ホウライカガミを食草とし、羽を広げると15センチメートルもある大型の美しい蝶が多く生息します。サナギが金色をしているため夕日にあたるとキラキラと輝きます。



天神浜

志戸桶海水浴場（別名・天神浜）の浜は毎年7月頭に地域の人々がボランティアで行う草取りのおかげもあって昔から残り続けています。この浜にはアカウミガメやアオウミガメが産卵にやってきます。



アダンの風車

アダンの葉っぱのトゲをとって風車のように2本で編んで回したり、ラッパにしたりして遊びます。ほかにもソテツの葉っぱを使ってカゴやアクセサリを作ったりしていました。



志戸桶集落めぐり



1 ミンサオーミズー
集落のなかを流れるミンサオーミズー（川）。



2 ビンジュンさま
願いを込めて石を持ち上げ、重ければ願いは叶わず、軽ければ叶う!? 珊瑚の神様。



3 井戸・馬つなぎ石
昔からあり、時代を感じる井戸と、くぎを使わずに建てられた馬小屋。



4 保食神社
食料が絶えないように祈る場。入り口の鳥居に注目すると面白い発見が?!



5 ウフバーヤ
崖に囲まれ大切に守られてきたウヤフジ（ご先祖さま）の古い大きな墓。



6 日本最北端のハスノハギリ
寄り添って立つハスノハギリ。大きな背丈! 日本でもっとも北にあるハスノハギリである。



7 ミヤーの跡
五穀豊穡を祈願して神事を司った場所。昔は防空壕だった。



8 セサミストリート
5月から10月にかけて喜界島の名産ゴマを乾燥させている風景がいたるところで見られる。



たくさんの実がなったミカンの木。食べても美味しいけど石垣とマッチした景色が素敵

島ミカンロード

魔除けの石碑である石敢當が3つも! それぞれ刻まれ方が違うから比べると面白い



いしがんとろ石敢當

南部と東部の境界

ミンサオーミズー①

②ビンジュンさま

③井戸・馬つなぎ石

武家屋敷跡

保食神社

商店

芭蕉句碑

ウフバーヤ⑤

弘法大師

真言宗の開祖である弘法大師が祀られている場所。凛とした雰囲気

⑥日本最北端のハスノハギリ



志戸桶簡易局

志戸桶南部地区公民館

⑦ミヤーの跡

ガフロンヤー

カッパの住み家

● 祭りに関する場所
■ 主な施設

志戸桶東部地区公民館

⑧セサミストリート

喜界島東部地区構造改善センター

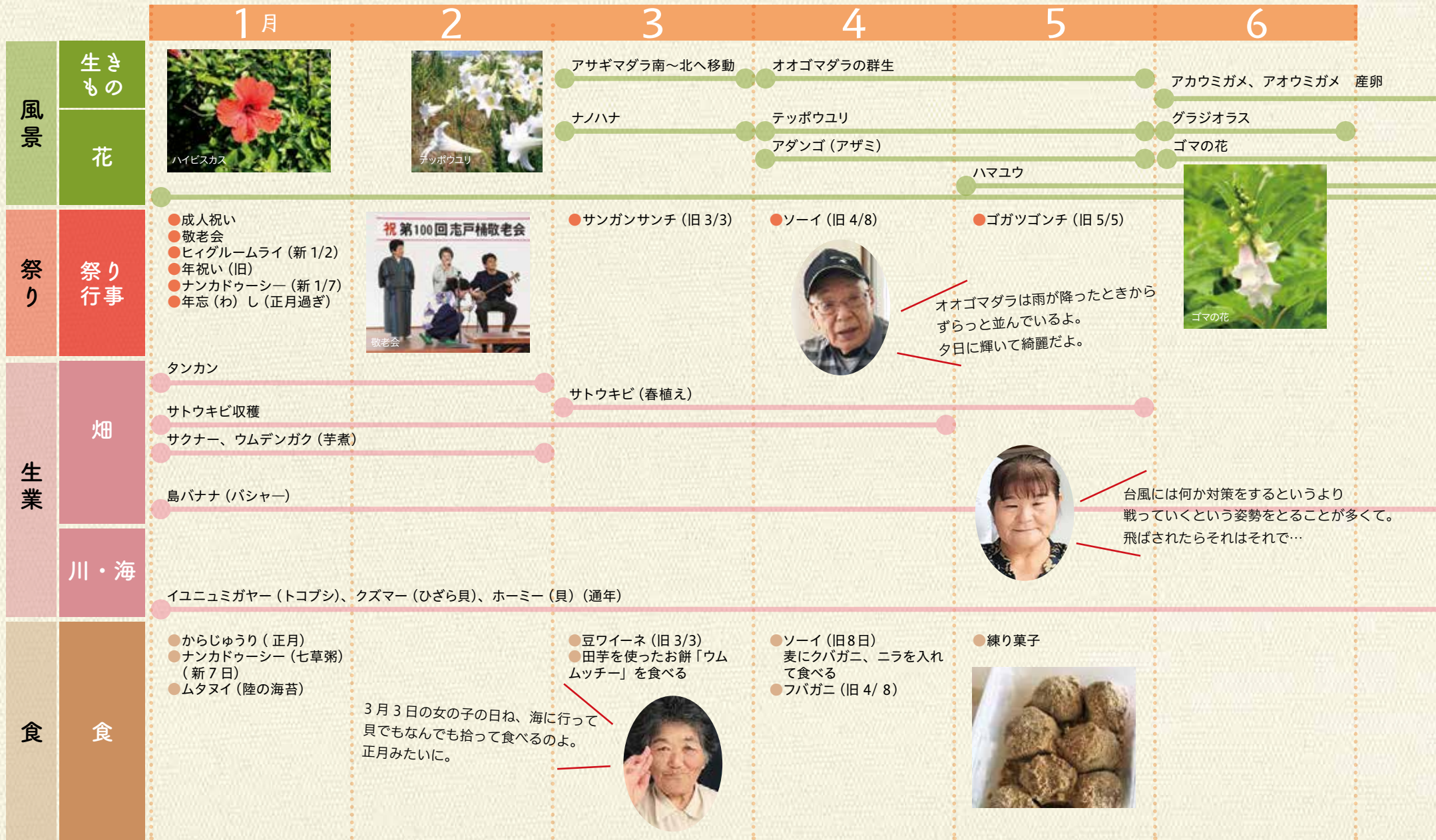


喜界島：志戸桶

喜界町・志戸桶集落

Shitooke

しとおけ 喜界町
志戸桶集落の季節こよみ



7

8

9

10

11

12

アカウミガメ、アオウミガメ 卵のふか

アサギマダラ 北～南へ移動



ユウナ (オオハマボウ)

- 六月灯
- 水天宮 (旧 6/5)
- 保食神社 (旧 6/15)
- 弘法大師 (旧 6/21)
- 天満宮 (旧 6/25)
- セタ (7/7)

- お盆 (旧 8/13,14,15)
- 盆踊り (旧 8/15)
- 年祝い (88 歳)
- 天満宮豊年祭 (旧 8/25)
- 親子運動会 (第 2 日曜日)

- シチャミ (旧 8 月最初の丁の日)
- シバサシ (シチャミから 5 日目)
- 保食神社豊年祭 (旧 8/15)

- 町民体育祭、運動会

- 忘年会



保食神社豊年祭

サトウキビ (夏植え)
ゴマ
マンゴー

サトウキビ収穫



島みかん

ウフミ (リュウキュウハタンポ)

- 型菓子
- もやし (旧 7 日)
- フクリカン
- ミンダン
- カムムッチ (13 ~ 15 日)
- つちあげ (25 日)

- フワイ (田芋の茎)

- 塩豚を作る
- ヒル
- 豚肉
- ヒルイッチャーシー



アダンの葉っぱで風車のように編んで回していました。
でもそれをしてたら年寄りに叱られた。
風車を回したら台風が来るって。



あまみクイズ

クイズ QUIZ 市集落 編

奄美市住用町

Q1 ケインムンはある動物の匂いがするところにいるといわれています。その動物とは一体何でしょう？

- A ヤギ B 犬 C 牛

Q2 奄美大島にしか住んでいない『オットンガエル』はオスしか鳴きません。○か×か？

- A ○ B ×

Q3 ハブがいなくなるようにと願いをこめ、駆除したハブは、ハブが存在しないある島に頭を向けてそのハブを埋める風習があります。それはどの島でしょう？

- A 与論島 B 喜界島 C 沖永良部島



クイズ QUIZ 大和浜集落 編

大和村

Q1 十五夜豊年祭では神様にお水をお供えます。これはどのお水を使用しているでしょう？

- A 水道水 B 滝川山の湧水 C 海水

Q2 十五夜豊年祭で行われる棒踊りの歌は昔から変わらず、「○○」、「霧島」、「白帆」の三曲で組み立てられています。○○は何でしょう？

- A 君が代 B 小学校の校歌 C ヒギャ唄

Q3 大和村の特産品としてあげられる「スモモ」。一般に知られるアメリカ原産のプラムとは異なります。大和村で育てられる「スモモ」の「品種は何でしょう？

- A キラリ種 B チラリ種 C ガラリ種



クイズ QUIZ 須子茂集落 編

瀬戸内町

Q1 次の選択肢のうち、実際に生垣に使われている植物はどれでしょう？

- A 松 B ゲッキツ（月橘） C 梅

Q2 集落にある、集落を守り続けている火の神様の名前は何でしょう？

- A グンギン様 B アンシン様 C ソンゲン様

Q3 実際に使われている呼び方で、南風を表す言葉は？

- A シラベ B ナラベ C アラベ

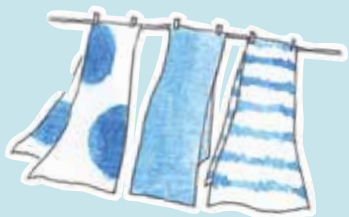


クイズ
Quiz 宇検集落 編
宇検村



- Q1 高千穂神社から一望できる大きな無人島枝手久島は、〇〇の発祥地ともいわれていますが、その動物は何でしょう？
A ウミヘビ B ハブ C ヒョウモンダコ
- Q2 大潮の限られた日にしか見ることができない「マイクロアトール」は、船越海水浴場にあります。このマイクロアトールとは、サンゴ礁地形の代表的な形で、長い時間をかけ形成された〇〇群体です。この〇〇に入る言葉は何でしょう？
A イソギンチャク B 宝石サンゴ C サンゴ
- Q3 現在、宇検集落では恵まれた自然環境を生かし海洋牧場方式で盛んに行われている養殖があります。それは粗放による養殖地では日本一の生産性を誇っています。一体それはなんの養殖でしょう。
A クルマエビ B ブラックタイガー C バナメイ

クイズ
Quiz 中戸口集落 編
龍郷町



- Q1 古くから染め織りで栄えてきた龍郷町ですが、大島紬の代名詞的存在である「龍郷柄」は何をイメージした柄でしょう？
A テーチ木 B グァバの花 C ソテツ
- Q2 戸口集落では平行盛が行盛神社に尊敬され、祀られています。その昔行盛が地域の人々に教えたことは何でしょう？
A 稲作 B 漁業 C 倫理と道徳
- Q3 戸口集落のマツインシャの近くには、日が暮れる頃に恐ろしい動物が現れるので早く帰りなさいという言い伝えがあります。その動物は何でしょう？
A ハブ B 人食いうさぎ C 首切りブタ

クイズ
Quiz 志戸桶集落 編
喜界町



- Q1 9月に子どもの成長を願って家庭で行われる「シチャミ」と呼ばれる儀式があります。その際、お祓いに使う植物は何でしょう？
A ソテツ B ヨモギ C ススキ
- Q2 お盆にお供えする菓子として、フリカン、カンムッチーがあります。それぞれ、なにかの肺と肝臓をあらわしたものであると伝えられています。それは一体なんでしょう？
A 仏 B キリスト C 西郷隆盛
- Q3 志戸桶集落にある保食神社には、鳥居の両脇に動物の頭の形をしたものがついています。それは何の動物でしょうか？ちなみに、保食神社は別名・〇頭神社と呼ばれています。
A 馬 B 猿 C 犬

とくのしまちょう 徳之島町 かなみ 金見集落 みなが賑わい元気になる金見集落

金見集落は、徳之島最北東端に位置し、金見崎を頂点とした半島をすっぽり含んでいます。灯台や展望台がある高台をヤンウェンバリ、公民館や家々がある低地をアタインバリと呼び、集落はアタインバリから始まりました。

金見集落の人々は漁を生業としてきました。祖先は海を渡ってきた人々だったのであると考えられており、今もなお暮らしは海を抜きに語ることはできません。金見崎展望台に登ってみましょう。息をのむほど美しい、透き通ったエメラルドグリーンや深い青の海原が目の前に開けます。陸で大きな開発がなく、また赤土などが流れ込むような川もありません。何より金見集落の人々がこの海を誇りに思っていることが一番の理由でしょう。この海は豊かな恵みを与えてくれます。イセエビや多くの魚が獲れ、集落には魚を買ったことがない人もいます。この海には、冬になると子連れのクジラが姿を現し、夏が近づくとウミガメも産卵にやってきます。南方には徳之島独特の海岸地形と、井之川岳が望めます。

集落の中心から金見崎展望台にかけて200メートルも続く「金見崎ソテツトンネル」は、300年以上も前に手々集落から伝えられたソテツを丁寧に育てたもので、戦後の厳しい

食糧難を救ってくれました。今日の生は「ソテツと海のおかげ」とシマのお年寄りはいいます。2つある水源（ウインコ、スーンコ）も、常に潤れることなくシマの暮らしを支えてくれます。そんな金見集落の人々はとても仲が良く、毎日のように顔を合わせながらいつも一緒に暮らしてきました。



ソテツ

ソテツは捨てる場所がありません。ナイと呼ぶオレンジ色の実が味噌の材料になります。半分は割って水で洗い、天日干して解毒し、石臼で挽いて粉にし、大豆と混ぜれば「ソテツ味噌」に。ナイの殻は燃料になり、葉は細工して虫かごなどを作ります。戦後の食糧難の時代にソテツの粉はおかゆに混ぜて米の足しにしていました。



金見水曜クラブ

毎週水曜日に開かれる、金見のお年寄りのお楽しみのサロンです。集まってゲームをしたりお喋りしたり。もともと個人宅を使っていましたが、今は集落の倉庫を改築して「常設」になりました。厚生労働省の「健康寿命を伸ばそう!アワード」の介護福祉部門で厚生労働大臣賞も受賞しています。



まんきゃ遊び

金見集落では、祝い事や行事などがあると「まんきゃ」を唄って遊びます。男女が向かい合わせに座り、14番まである唄をうたいながら手踊りをします。徐々にテンポがアップして、最後は激しい踊りに大変身。「まんきゃ」とは招くという意味で、悪霊を祓って幸せを招くという願いが込められています。激しく踊るのは、新築した家がそこまでも壊れないことの証明の意味があります。気になる歌詞は公民館に掲示されているので、ぜひ覚えて一緒に踊りましょう!



まんきゃ遊び

金見集落めぐり 集落まるごと国立公園

釣りのメッカ トンバラ岩



1 トウッカ
1億年前にできた岩に穴が空いていて、そこから見る風景がきれい。



2 金見崎灯台
1972(昭和47)年に建てられ、長い間、船の安全航行に役立ってきた。



3 オカヤドカリの産卵
梅雨明けに天然記念物であるオカヤドカリが産卵(6月~7月)に来る場所であり、2ヶ所ある。



4 金見崎展望台
太平洋と東シナ海を一望できる。晴れた日には加計呂麻島・請島・与路島を見ることが出来る。



5 金見崎ソテツトンネル
樹齢約300年のソテツの群生でできた約200mに渡るトンネル状のアーチ。畑の風除けの役割をしている。



6 金見水曜クラブ
集落の憩いの場。毎週水曜日に集落の高齢者が集まって大きな賑わいをみせる。



7 コーネンヤマ
水神様を祀る集落の守護神。絶え間なく湧き出る泉「フゴウ」がある。髪洗い石と大きなガジュマルがポイント。



8 豊受神社
かつてはコンクリート製の鳥居だった神社。集落の守り神として親しまれている。

手々集落からもらった苗から育て上げた。自然にアーチ状になり、トンネルを作っている

5 金見崎ソテツトンネル

4 金見崎展望台

とうぐら (ジビエカフェ)

2 金見崎灯台

1 トウッカ

3 オカヤドカリの産卵

フウマタグルセ

- 祭りに関する場所
- 主な施設
- 水に関する場所

昔の村の大事な水源
「ウインコ」上の泉。
「スーンコ」下の泉。

● 水源

デマンドバス

6 金見水曜クラブ

7 コーネンヤマ

金見荘

金見公民館

ムエンカッサント。昔、集落の行事をしていた場所

ウスカテゴイ。海水を汲む場所

ふるうーめーる

マスタキヤドゥイ。塩を炊く小屋があった場所

8 豊受神社

海岸沿の散歩道



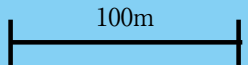
太平洋

徳之島：金見

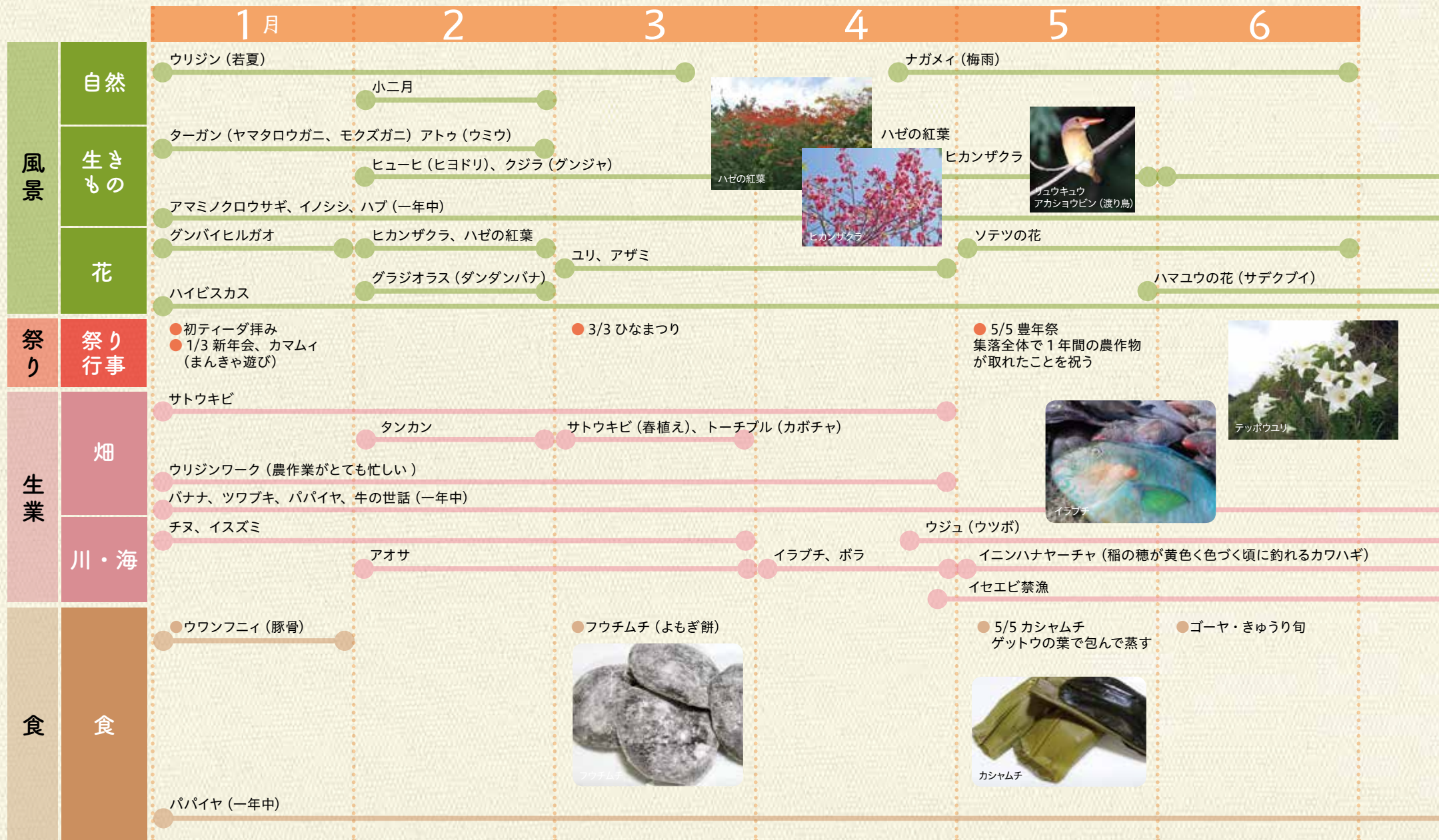
徳之島町・金見集落



Kanami



かなみ 徳之島町
金見集落の季節こよみ



ハゼの紅葉



ヒカンザクラ



リュウキュウアカショウビン (渡り鳥)



デッポウユリ



イラブチ



フウチムチ



カシャムチ

7

8

9

10

11

12

ハイ (南風) 台風シーズン

アカ、アオウミガメ産卵

グンバイヒルガオ

ハマゴウ

● 魚なくさみ
(ぎゅうなくさみ)

スク (アイゴの子)

● 盆 (旧8/13-15)



チマミイ

テーチ (シャリンバイ)

ガジャン (蚊)

● 十五夜
● 敬老会、まんきや遊び

イビ (イセエビ)



アミノノクロウサギ (特別天然記念物)



カムイ (まんきや遊び)

ミーニシ (北風)

ツワブキ
シノミ (オキナワウラジロガシの実)

● 忘年会



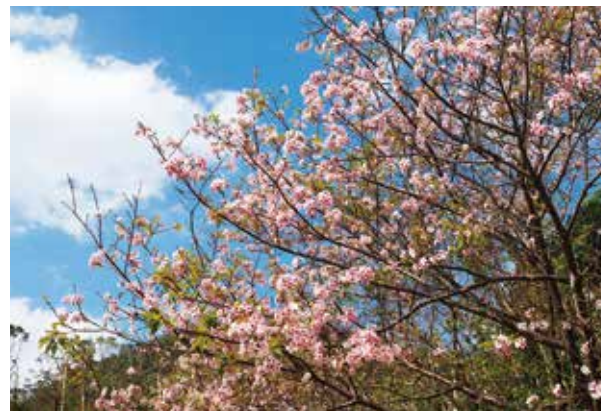
当部集落

アマミノクロウサギの里の住人は、あがりまたに集い地元愛を後世に繋ぐ

標高 170m ほどの丘にある当部は、奄美には珍しい内陸ジマです。徳之島の東西を結ぶ道にあり第二次世界大戦時は陸軍奄美守備隊に属する鬼塚部隊が駐屯し、この道を軍事物資の運搬のために使っていたことから、「鬼塚街道」と呼ばれました。そのため戦時中でも電気が通っていたのです。食料不足でソテツの実を毒抜きしながら食べた時もありましたが、このような複雑な歴史を抱えながら当部は発展してきました。

当部には自然界にあるものには靈魂が宿ると考えるアミニズム文化が色濃く根付いています。東又泉がある森にはビンジルガナシという石の神様を守り神として祀り、大切な試験の時や運動会の前日などには足を運んでお願いをします。その森にはオキナワウラジロガシの群落があり、日本最大級のドングリをつけています。2017(平成 29)年には、東又泉の近くに民家を改造した「茶処あがりまた」がオープンしました。集落の女性部が運営にあたり、郷土料理や地の食材を提供するとともに、当部の魅力を発信する場にする事を心がけてお客様を迎えています。週末ともなると多くの人で賑わい、活気あふれる場となります。子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が集まるため交流が生まれ、自然に文化継承が行われています。集落の人々は大半が高齢者ですが、いつも笑

いが絶えません。訪れた方にも少しでも癒しの時を過ごしてほしいと「まぶらてい」(感謝・心をこめたおもてなし)の心で接しています。



東又泉 (アガリマタイジュン)

神山に降った雨水が地層で丁寧ろ過された水が湧き、昔から集落民の生活用水として使用されてきた泉です。山の水は水温が通年一定で、台風でも濁れる心配がありません。日々の飲料水や子ども会のそうめん流し、茶処あがりまたの料理などに使われています。島内随一の湧き水のため遠くから汲みに来る人も多く、地元の誇りとなる資源でもあります。

アマミノクロウサギ

当部が「癒しの里」ともいわれる理由の一つに、アマミノクロウサギが多く生息していることもあります。アマミノクロウサギは奄美大島と徳之島にしか生息しない固有種で、「生きた化石」ともいわれる国の特別天然記念物です。当部の人々は「クロウサギの里に人が住まわせてもらっている」と考えています。アマミノクロウサギを愛し、誇りに思っ生活を楽しんでいます。



ウワンフニィ

島口で「ウワンフニィ」と呼ばれる、豚のバラ肉を軟らかく煮た料理は、当部集落の郷土料理です。味付けは年代によって異なり、若い世代には砂糖で甘く煮たもの、ご高齢者には塩でシンプルに味付けしたものが好まれます。ほかにも豚肉を油と味噌でいためた「アンバミシュ」など、豚肉を大いに活用した料理が豊富にあります。豚肉はごちそうで、全ての部位を食べます。ぜひ味わってみてください。



米ジマ・みかんジマ

水が豊富な当部では、昔から米とみかんの栽培が行われてきました。島口で「シーグニン」と呼ぶみかんは水の管理が難しい果物ですが、当部では様々な種類のみかんが栽培されていました。米が年貢であった江戸時代、幕府は薩摩藩の財政力を奪うために、当部でできた米をすべて奪っていたという歴史があります。そのため当時の人々は自分たちで食べる米は山奥の「隠れ畑」でひっそりと作っていました。



当部集落めぐり

↑ 美名田山

↑ ① トウツカの滝

↑ 稲穂岳 (いのふでだけ)

- 主な施設
- 並木



カクレバタ (隠れ畑)
砂糖地獄で、堂々と畑を持つことができなかった時代に隠れ畑だったところ

② オキナウラジロガシ巨木

● 鬼塚部隊の跡地



アガリマタイジュン

③ ④ 茶処あがりまた

神道 (カミミチ)

⑤ ピンジルガナン

WC

ギョボク：ツマベニチョウの食草

鬼塚街道終点



● 牛小屋

⑥ 鬼塚街道

⑦ 当部公民館 (旧町立当部小学校)

WC

桜並木

徳之島：天城町

天城町・当部集落

Toube



① トウツカの滝

アガリマタイジュンの水源。周辺には島固有の動植物が生息するが、台風で森全体が大きな被害を受けた。



② オキナウラジロガシ巨木

2～3年に一度日本一大きなどんぐりがなる木。樹齢約300年。大木を支える根は幹のように太い。



③ 東又泉 (アガリマタイジュン)

徳之島町の水が硬水なのに対し、この水は軟水で美味しいと話題となり水を求めて訪れる人もいた。



④ 茶処あがりまた

お食事処としてはもちろんお茶会や研修所、子供たちの学習の場として活用される当部の憩いの場。



⑤ ピンジルガナン

当部の守り神として石が祀られている。辺りは祭事を行うため広々とし、周辺の木々も神様のものとして何も手がかえられていない。



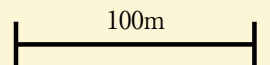
⑥ 鬼塚街道

太平洋戦争中に軍事物資を輸送する目的で開通された。戦後は集落民のライフラインとして生活の利便性を促した。

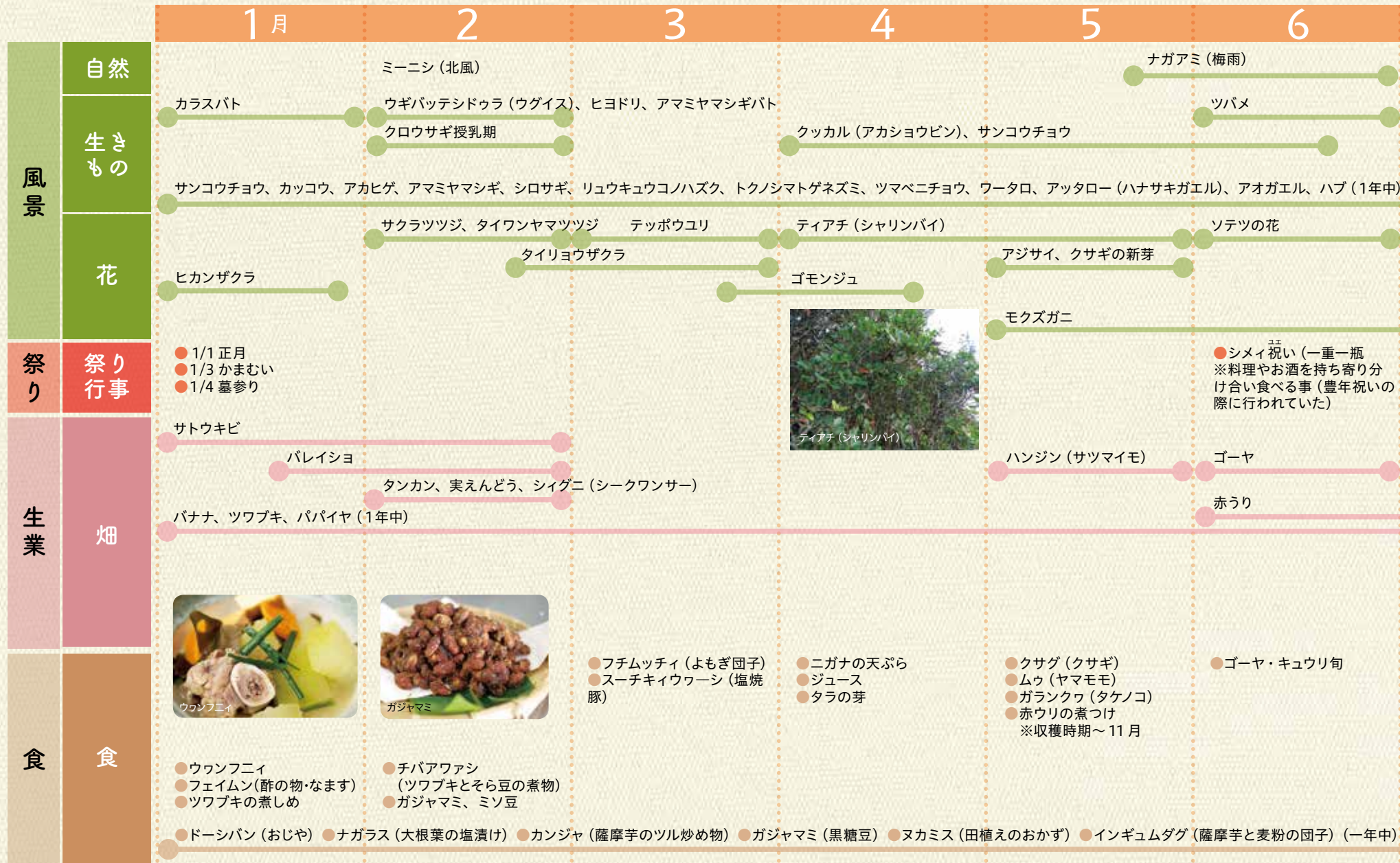


⑦ 小学校跡地

廃校後は集会の場として活用されている。校内は当時の生徒の作品や学校の機材など、当時の面影をそのまま残している。



当部集落の季節こよみ



ティアチ (シャリンバイ)

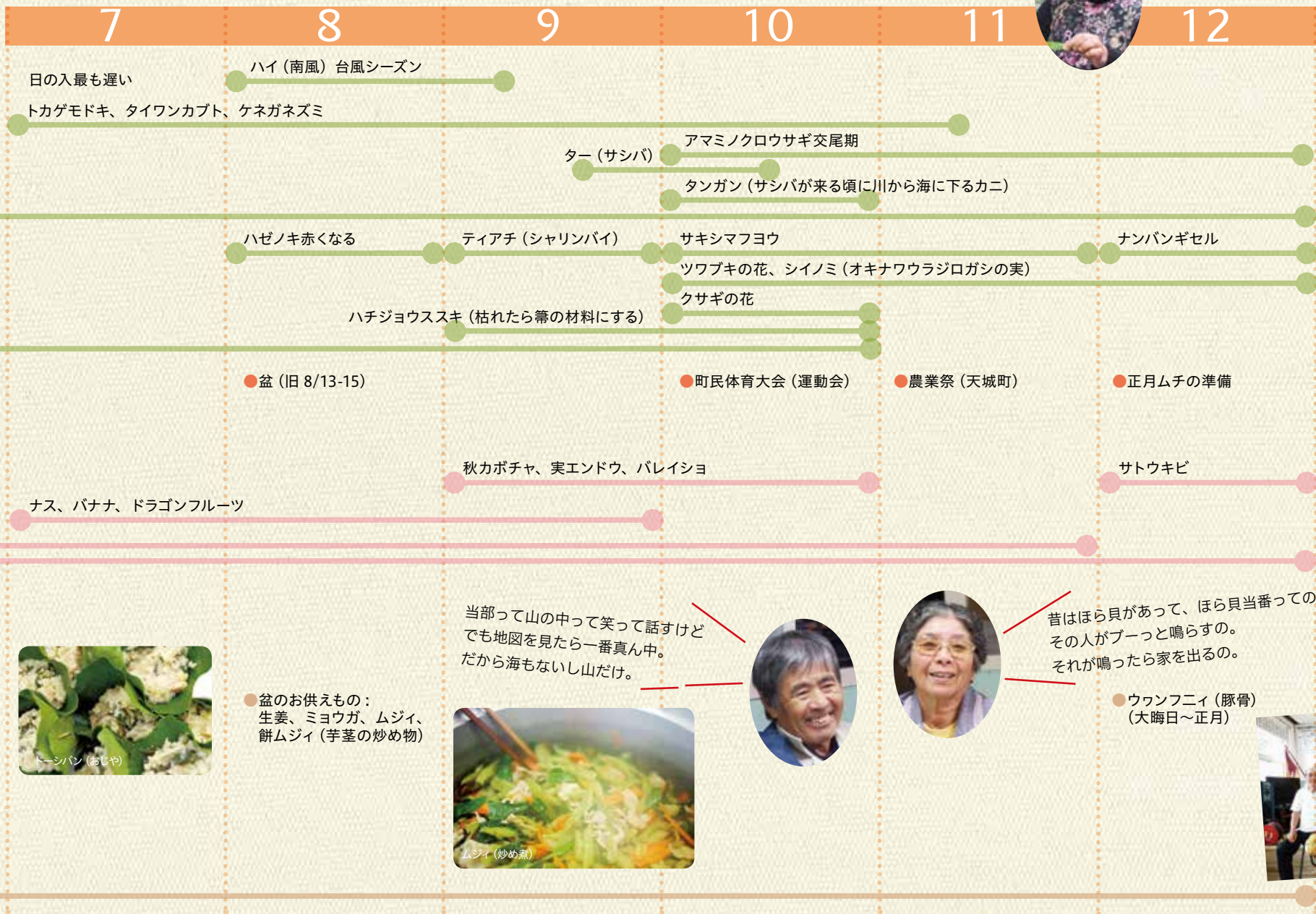


ウワンフニ



ガジャマミ

もちたぼれの歌に、当部は米島と言われていて、いたるところ皆田んぼだったんですよ。



当部って山の中って笑って話すけどでも地図を見たら一番真ん中。だから海もないし山だけ。



昔はほら貝があって、ほら貝当番ってのがいてその人がブーっと鳴らすの。それが鳴ったら家を出るの。



上面縄集落

昔ながらの徳之島の歴史と伝統を守り続けた海の玄関口

上面縄集落は、徳之島の南端部の海へと続くなだらかな傾斜地の高台にあります。大字東面縄、大字古里西浜とともに発展し、ウンノウ（面縄。恩納とも書く）を形成していました。これら3つの集落は今それぞれ自立していますが、行事や習慣などは共通しています。面縄とは町の中心という意味。上面縄には1895（明治28）年まで面縄間切喜念^{あつかい}の役場もありました（今は個人宅）。面縄には伊仙にできた最初の港があり、琉球との交易船の寄港地でした。比較的陸地に近く船をつけることができたのは、徳之島でもここだけでした。琉球の船乗りたちは、港の目印にとデイゴの木を寄贈し、今の上面縄の高千穂神社の境内地に植えたといわれています。季節になると鮮やかな朱色の花をつけ、海を行く船からよく見えたことでしょう。今も境内にその枯木が立っています。琉球との交流・交易が盛んだったことから琉球文化も色濃く残っています。王族である按司^{あじ}やその娘（妹という説もあり）が祀られている墓があり、琉球を臨んで建てられています。

集落内には、聖なる場所がそこここにあります。「アムトゥ」は屋敷地内にあり、砂を盛り、火の神、水の神、太陽の神を表す3つの石を祀ったもので、個人の祈りの場で

す。「カミミチ」は神山から降りてきた神様が集落を通り村内の聖地へと向かう道であり、「ミヤー」と「トゥネイ」はノロや人々が祭祀の時に使った広場です。かつて、祭祀（神祭り）は面縄ノロが取り仕切っていました。その習慣はなくなりましたが、今でも聖地は大切にされています。

そんな歴史を思い、海をながめつつなだらかな坂道を登り降りして、さまざまな時代を経てきた文化をたどってみましょう。

ウツァンフニ
豚骨豚とお正月

昔は各家に小さなブタ小屋があり、お正月に食べるための豚や鶏を育てていました。一年かけて家族の食べ残しをあげるなどして、それは丁寧に。年の瀬になると、豚も鶏も「殺されてしまう」と啼きました。当時は今とは違って安定して食材が手に入らなかった時代であり、食材への感謝の気持ちがありました。豚骨豚は骨が柔らかくなるまで豚肉を煮込む料理で、誰もが口をそろえて好物というほど。長い間シマで愛され続けています。豚を育ててお金持ちになろうという願いが込められた唄も伝えられています。

ションマイカ

大正時代から唄い踊り継がれてきた郷土芸能の一つです。ルーツは富山県八尾町の「越中おわら節」と言われています。当時、大阪の紡績工場で働いていた若い男女が島に帰ってきたときに、覚えてきた唄と踊りを上面縄の若い人たちに教えたことが始まりとされています。男女の掛け合い唄で、曲調に島唄と共通する部分があって生活風土に溶け込み、戦前戦後を通じて多くの人の努力で今日まで唄い継がれて来ました。「ションマイカ」と呼んでいます。若い人たちが唄っていたことから「新米歌」と通称されたようです。

牛とともに

闘牛が盛んな徳之島の中でも、上面縄は牛を飼う人が多い集落です。散策中にも連勝中の牛を見かけることも。島一番の牛を決める大会が年3回開かれ、なんとも熱い闘牛愛を目にします。試合がなくても飼い主は家族ぐるみで練習やトレーニングを欠かさず、牛を鍛えます。上面縄には闘牛組合があり、若手組員も多くいます。若い力で闘牛を盛り上げ、シマづくり活動を進めているのです。



伝説の大男

昔、上面縄集落にはミナデウンノウと呼ばれる体の大きな男がいました。彼はシマが困っているときに知恵を与えて元気にさせたことや、シマを様々な困難から救ったという伝説が残っています。実在したかどうかは定かではありませんが、一説には「源為朝」だったのではないとも言われています。

上面縄集落めぐり



① アムトゥ

周りを石で囲われ、その中に砂が盛られ、太陽・水・火の神をあらわす石が祀られている。



② 石敢當

魔除け。枝分かれした道に存在し、新旧様々な石敢當を見ることができる。この石敢當が一番古いという。



③ ションマイカ発祥之地碑

集落で親しまれ、唄い踊り継がれるションマイカのルーツを伝え、郷土芸能の継承を願う碑。



④ 上面縄旧役所跡

役場が伊仙に移るまで使われていた。住居の塀にしっかりと役所跡という文字が刻まれている。



⑤ 坂元権現

ガジュマルの木に囲まれた神秘的な空間。



⑥ 高千穂神社

見晴らしがよく、海が見える場所。以前はデイゴの赤い花が灯台の役目を果たしていたそう(伐採された)。



⑦ 面縄城跡をのぞむ

集落の北方には按司の城跡がある。近くには琉球時代にいた按司が祀られているというお墓や娘か妹にあたる人物のお墓もある。



上面縄集落の季節こよみ



7

8

9

10

11

12



ムンヤガシヤ

● 8/8 八十八の年祝い



十五夜

パンシロウ



パンシロウ

● ひきばん (冷たいおかゆ。ラッキョウと共に頂く)

● 8/15 ウトウシュリダグ(団子) インシャムチ



インシャムチ

どんぐりをくりぬいて
つまようじを刺してコマを作る。
自然のもので、なんでも自分で考えだして
遊び道具などを作っていた。



● 米粉の天ぷら、赤飯
マツナバ(ミチビキ。松茸
に似ているキノコ)の天ぷ
ら、焼きもの

サシバがとぶ

ツワブキの花

● 運動会
● ションマイカ披露

ウーメ(ツワブキ)

キンチャク(タケノコ的一种)

キビの花

● 種節(お墓参り・豊年祭)
● ションマイカ披露
● ドウンガ

ドコネ(大根)

アケビ

島ミカン、シイノミ



種節

● 門松をたてる
● 年忘れ



● フルイキ(ニンニクの葉・豚・
こんにやく・豆腐など)、
たまり漬け
● ウワンフネ(豚骨)の煮物
● ウワアシル(豚の汁)



ウワンフネ

● カシャモチ(種おろしの日に作る)



ウワアシル

わ 和泊町 和集落 和方（わなた）の隣にワンタロー

和集落は沖永良部島にある和泊町のほぼ中央部に位置する集落の一つです。内陸にあり、肥沃な赤土を生かした農業が盛んです。シマの形成は、「水が取れる場所」であることが決め手となります。和集落は精進川（ソージゴ）に湧く天然水を源としてシマができました。ソージゴの辺りには昔は水田があり、ソージゴの水は田や畑を潤し、人々の水浴びや洗物、牛を洗う水にも使われ、生活の助けとなっていました。子どもたちはここでフナや鬮魚を釣ったり、ヤシの葉っぱで作った輪でテナガエビを釣って遊んだりしていました。今も植え付け前のサトウキビを浸けるなどに使われています。ソージゴの水は小川となって、洞窟のガラドーを通過して下流へと流れます。ガラドーは、晴天時にはとても幻想的な鍾乳洞で、希少なコウモリが生息しています。

和集落の人々は元気でアイデアと実行力に富んでいて、これまで様々な産業おこしに取り組んできました。戦前にはゆり球根の輸出を行なってきましたが、戦争になって輸出禁止となり、1942（昭和17）年にはでんぶん工場を作り9年間操業しました。また、昭和初期から戦前まで、アンチモニーとマンガンの鉱山も稼働していました。

和では集落の将来像を「村づくり計画」にまとめ、活動しています。人口減少や少子

高齢化などの課題を解決し、集落の活性化を目指すことが目標です。その中に掲げた「川と水の整備」や「コーヒー園づくり」などは着々と実行に移しており、現在はコーヒー農園やえらぶゆりの生産に取り組んでいます。



コーヒー



えらぶゆり

えらぶゆり

えらぶゆりの栽培は、100年以上前に島に来た海外の貿易商アイザック・バンディングが島に自生するユリに感動して、ユリの球根を高値で買い付けたのが始まりと言われています。戦争やウイルス病などの苦難がありましたが、島の人々の努力によって100年以上えらぶゆりを守ってきました。そして2013（平成25）年5月には、沖永良部島が「かごしまブランド」として産地指定されました。

ガラドー（がら洞）

コキクガシラコウモリの亜種のオリイコキクガシラコウモリがすんでいる鍾乳洞です。地面の粘土はとても質がよく、昔の人々はガラドーの粘土をシャンプーの代わりに使っていました。晴れている時にこの洞窟に来ると、とても幻想的な光景を見ることができま



田芋

田芋は地域によって呼び方が異なっていますが、和ではターニウムと呼ばれており、お餅やお団子にして食べています。煮た田芋を潰して黒糖を加えて、丸めて黄な粉をまぶした田芋餅（ターニウムムッチ）は先祖祭のお供えものとして作られています。



ワンタロー伝説

逞しい筋骨と風貌で、その豪勇ぶりは沖永良部島全体にまで鳴り響いたと言われている「ワンタロー伝説」が古くから言い伝えられています。ディダゴーにある大石のくぼみは、和字の伝説であるワンタローがマドルウ峠からいくつもの山を飛び越えて、着地した時の足跡だと言われている



ワンタロー踊り

す。「どこからきたのかワンタロー、身の丈六尺大男」と「わんたろうの歌」もできました。

和集落めぐり



1 ワンタロー石1

和集落の伝説として語り継がれる、「ワンタロー」の足跡が残っている石。集落内に二つの石があり、大きな石にある20cmくらいの小さなくぼみが足跡と言われる。

2 アンチモニー採掘跡

かつて和集落ではレアメタルのアンチモニーとマンガンが採掘されていた。特にアンチモニーは和だけで採掘されていた貴重な資源。マンガンの採掘場は田んぼに、

3 ヒージョ

ヒージョは昔から多くの生物が生息しており、現在でも大きなうなぎやカニを間近で見ることができます。昔はアンチモニーやマンガンの採掘の影響で、ヒージョに向かう道の途中には、アンチモニーの試掘場を見ることができる。



マンガンの採掘跡



沖永良部島コーヒー

沖永良部珈琲豆は農業を一切使わず植物の自然な力で育ったオーガニック製品で、優しくまろやかな香味が特徴のコーヒー。



湧き水

6 「謎のお地藏さん」

7 ソージゴ



田芋畑跡

ため池は、生活の起点。ソージゴの前は、田んぼで昔、ターニウム(田芋)を作っていた



4 洞窟

和集落には謎の洞窟があり、行くまでの道は困難だが、道中では集落の美しい自然や生物や風景を楽しむことができる。



5 ガラドー

晴れている時はとても幻想的な光景を見ることができる鍾乳洞。昔の人々は洞窟の粘土をシャンプー代わりに使い生活していた。



6 「謎のお地藏さん」

通称「謎のお地藏さん」と呼ばれる田んぼの守り神。しゃもじとお茶碗を持っているのは、豊作を祝うためと言われていた。



7 ソージゴ

集落の農業や生活の助けとなる湧き水が豊富に湧いている。昔、この辺りは水田で、田畑を潤していた。牛を洗ったりサトウキビの苗をつけておくのに使われてきた。

戦前、ソテツの芯からでんぶんをとる工場があった

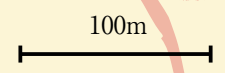


沖永良部島：和








和泊町・和集落

Wa



わ 和泊町
和集落の季節こよみ

		1月	2	3	4	5	6
風景	生きもの	グッピー、大ウナギ、タナガ、ウナギ(1年中)		ザトウクジラ ガラデー(たけのこ)		ノスビ(セミ) クッカル(アカショウビン)	ホタル
	花	スイセン(サトウキビ収穫時期に咲く) サトウキビの花 島ミカン	つつじの花		エラブユリの開花(五月の初旬まで)	コーヒーの花 ハイビスカス グラジオラス	アジサイ サルスベリ
祭り	祭り行事	<ul style="list-style-type: none"> ●新年会 ●町内一周駅伝 ●年の祝い ●若水汲 ●1/12 止正月 ●初詣 ●1/11 鏡開き・鏡割り ●松竹梅(踊り) 	 松竹梅(踊り)			 奉仕活動(草刈り)	<ul style="list-style-type: none"> ●ミチブシン(歓迎会) ●奉仕活動(草刈り)
	畑	ジャガイモ支柱立て・ネット張り にんにくの葉		にんにく(収穫) フリージア キビの植え付け(春植え) ジャガイモ	マンゴー受粉 ユリの花		サトイモ
食	食	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒルアギ(ニンニクの葉と豚肉・ニンジンなどを炒めたもの) ●ヤマイモ ●サトイモ ●ジャガイモ ●吸い物 ●ウデイの漬物 ●恵方まき 	 ヒルアギ	●ジャガイモもち	●つわぶきの佃煮	●里芋 ●イチユビ(野いちご)	●ゴーヤ
		●キビ(12~4月)	ユリの花 ダイコン・カリフラワー・ブロッコリー・タンカン・ほうれん草・スナップエンドウ・サヤインゲン・レタス				
		●パパイヤの漬物(一年中)			<p>昔は各家庭それぞれが牛を養っていたから、キビを絞る道具を牛で回してキビを絞り、絞ったものを炊いて、砂糖を作っていました。</p> 		

昔はよく川で遊んでいました。他にもデアボールというクルゴの木を使った手作りゴマを作って遊んでいました。



7 8 9 10 11 12

アサ (クマゼミ)
ボンボ (カナブン)

トーデー (太いたけのこ)

彼岸花

シーワイ (ミンミンゼミ)
赤とんぼ
クワガタ
サシバ

ヤマタローガニ (11月~1月)



●墓参り (ショーロ口)
★行事の後はいつも、サイサイ節、わんたろう音頭を歌い、踊る。

●敬老会

ガジュマル
ハゼの穂

すもも
椿
サザンカ
●農業祭

スイセン

●ミチブシン：忘年会



ユリの球根掘り

ドラゴンフルーツ、ゴーヤ

キビの夏植え
ユリ球根植え付け

にんにく植え付け (10月中旬)
ジャガイモ植え付け

パッションフルーツの出荷 (6月、12月)

コーヒー収穫 (11月~2月)
ヤマイモ

キビ刈り
ユリの切花 (12月中旬~)

バンシロー (グアバ)



ガラドローは晴れているとすごく幻想的で希少なコウモリが住んでいます。この粘土はとても質が良く昔はシャンプー代わりに使っていました。



- バンシロー
- 地豆の塩茹
- ナービラー (へちま) のみそ炒め
- 島みかん
- お吸い物

- シブイ汁
- タームジ
- ドラゴンフルーツ
- マンゴー
- パッションフルーツ



キビ (12~4月)



戦後は食糧難で、ソテツの芯を粉にしてでんぷんにして食べていました。昔は水道がなく、桶に水を汲んで頭にのせて運んでいました。



せりかく ちなちよう 知名町 瀬利覚集落 沖永良部のヴェネツィア 瀬利覚（ジッキョ）

瀬利覚集落は知名町南部に位置しています。港からも近く、中心地であったことから昔から多くの人々が住んでいました。集落内に2ヶ所残る風葬跡などからも、そのことが伺えます。瀬利覚集落は通称「ジッキョ」と呼ばれています。シマの中央には“平成の名水百選”にも選ばれた湧水「ジッキョヌホー」があります。「ホー」は泉のこと。空中写真で見ると、ジッキョヌホーを囲んでシマが形成されていることがわかります。この水があったからジッキョには多くの人が住むことができたのでしょう。人々はホーを大切に守り、管理してきました。ジッキョヌホーの保全・清掃活動の中心は月ごとに決められた集落の小组合で、それでもなお手が届かないことをシマの元気な任意団体「ファンゲル塾」が担っています。

瀬利覚は平坦なところが少ない入り組んだ地形をしているため畑を作ることが難しく、島のいたるところに存在するサンゴ礁の大地を開墾し、人々の生活を支える生業を続けてきました。古くから生産してきた芭蕉布などが代表格です。

ジッキョにはイータバ（結束）精神があります。イータバとは結や絆、助け合いの精神のこと。火事が起きたらバケツを持ち寄り、バケツリレーをして消火にあたりました。

これが原点です。伝統文化もこのイータバ精神で守ってきました。知名町の無形民俗文化財である「瀬利覚の獅子舞」は300年以上の歴史があり、「ヤッコ踊り」も保存会を作って継承しています。祭りや生活文化には沖縄の影響が色濃く溶け込んでいます。



瀬利覚の獅子舞

獅子舞は沖縄から伝わりましたが、沖縄と違い頭が軽いのが特徴です。獅子頭はデイゴの木、毛にはバショウを400本ほど使います。現在の獅子は1969（昭和44）年と2001（平成13）年に作られました。獅子に2人入り、三線の囃子で舞います。シマの大きな行事や敬老会などで披露され、国民文化祭（2014年・秋田県）に出演したことも。豊作を祈願し、若い人たちの社交の場でもあります。原料のデイゴやバショウを植える場所や獅子職人がいなくなり、継承が課題です。

ファンゲル塾

シマの高齢化が進みイータバが薄れていくのを止め、元気を取り戻そうと生まれたのがファンゲル塾です。ファンゲルとは意地っ張り、無骨、頑固などの信念を表す方言。「確かなる未来は懐かしい過去から」をモットーに、毎週火曜の夜に開く「たれやめの会」やシマ散策のガイド、ジッキョヌホーの掃除、トウギョの保護活動、やさしい市、夏休み子どもたちの宿題のお手伝いなど活発に活動しています。2018年2月に「トウギョの里プロジェクト」がユネスコ未来遺産に登録されました。

33回忌とジュウテ

三線弾きのことをジュウテと言います。かつては故人の「33回忌」には家から海岸近くのお墓まで念仏踊りを踊りながら歩き、墓前を清めてからジュウテの三線を聞かせたものでしたが、ジュウテが減ってその習慣もなくなりつつあります。現在は、県民文化祭などで子どもたちにも三線の出演機会を増やし、少しでも興味を持ってもらえるように努めています。沖永良部の三線は琉球音階が使われており、奄美大島や徳之島とは異なる音色を奏でます。

ジッキョヌホー

ジッキョ（瀬利覚）ヌ（の）ホー（湧き水）という意味ですが、シマでは単に「ホー」と呼んでいます。水道が通る前までは、飲料水、洗濯、風呂、防火水、水田と生活に欠かせない水源であり、「井戸端会議」の場でもありました。台風で水道が止まっても涸れないジッキョヌホーはまさにシマの宝。水神様を祀って大切にしてきました。水道が整備されて人々の足が遠のき、次第に荒れていった時期もありましたが、再び水に対する感謝の気持ちを大切にしてもらいたいという思いから1991（平成3）年に「ホー祭り」が始まり、毎年欠かさず続けています。

瀬利覚集落めぐり



1 墓又

昔、墓がなかったころは崖に穴を掘って、遺体を置き風葬していた。風葬跡にはその名残が残っている。



2 ファングル塾

集落の憩いの場。毎週水曜朝6時の「やさい市」は毎度数分で完売。字散策ツアーなども実施している。



3 ジッキョヌホー

古くから大切にされている湧水地。昔は飲料水に洗濯や農業と、とてもお世話になった。



4 トウギョビオトープ

トウギョは珍しい淡水魚で国内では沖縄と沖永良部にしかいない。ビオトープで保護活動を行っている。



5 サンゴの石垣

島では様々な場所でサンゴが使われているがシマで最も綺麗で立派なサンゴの石垣がみられる。



6 向田神社

シマの神様を祀っている。毎年、お正月が来る前にはみんなで掃除をする。



7 海沿いのお墓

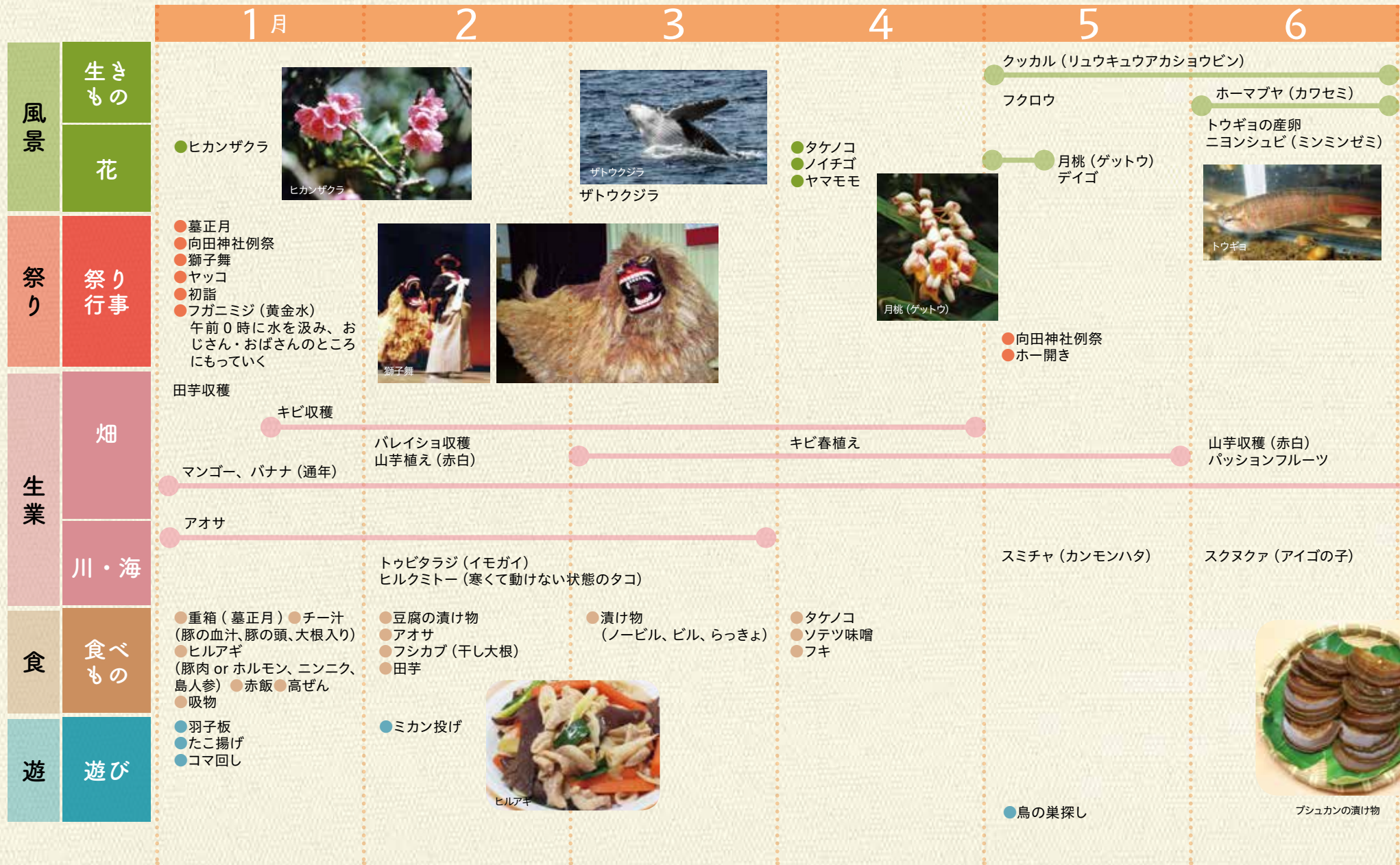
海岸沿いの道路に面して約150mつづく。敷地が大きく、一つ一つが仕切られて周りはサンゴで囲われている。



8 夕陽のきれいな海岸



せりかく 知名町
瀬利覚集落の季節こよみ



7

8

9

10

11

12

ホタル
アーサ (クマゼミ)



ホーまつり

- ホーまつり
- ホウ山の伐採

- 墓道清掃
- 墓送り (盆)
- 盆踊り
- ホー掃除 (毎月)

ヒグラシ

サシバ

ソテツの実

ハゼの紅葉

アオイ
トウクリブ
シークリブ

正月にはえらぶにんにくを食べる。
ホルモンで炒めてピーナッツを
湯がいて、お酒のおつまみに！



- 墓道清掃
- ホー山の伐採
- 大みそか

キビ夏植

しゅうな、大根、人参
小松菜、ちんげんさい
ほうれん草、さつまいも

キビ収穫

ヘチマ、ナス、唐辛子、ピーマン、ニガウリ
オクラ、カボチャ、パッションフルーツ

パレイシヨ植付

モーハニ (アイゴ) 突き
ハチチ (シラヒゲウニ) 採り
イジュで魚釣り
タナガ捕り

- ブシュカンの漬け物
- 地豆
- 地豆腐
- もやし作り
(川があったから)



地豆腐

ウナギ釣り

- キャベツ
- ブロッコリー
- パパイヤの塩漬け

イザリ

●豚の塩漬け

●シギ鳩獲り

川遊び、川遊び、海の高飛び込み、潜り競争

カゴ作り、蜂とカマキリの合戦、水鉄砲



獅子舞がなくならないように、
デイゴと芭蕉を残す人、
継承してくれる人が必要。

ぐすく よろんちょう 与論町 城集落 心をクスグの宝

奄美群島最南端に位置し、「東洋の海に浮かび輝く一個の真珠」とも例えられる与論島。美しいサンゴ礁に囲まれた与論島の南端に城集落があります。集落名のグスクとはお城のこと。城集落は琉球王朝時代の与論城跡を守り、1905（明治38）年に役場が現在の茶花集落に移転されるまで行政、文化の中心でした。与論城は1400年代に琉球の北山王の三男によって築城されました。断層の地形をそのまま利用した自然の要塞のような形をしています。畑の中にある入口から城壁に沿って城の頂上へ。道の途中には風葬跡や役人の墓などが点在し、当時の気配が漂っているようです。

歴史と文化に誇りを持つ城の人々は団結心・連帯感が強く、住民一体となった集落づくりを行ってきました。助け合いの精神「結」（方言でユイケー、ユイタバー、ムエー）が今も大切に受け継がれ、漁、農作業、家づくりや冠婚葬祭などの生活に深く関わっています。1957（昭和32）年には自力で集落公民館を建設し、稚蚕飼育場の設置、集落の共同売店の運営、集落放送の整備に取り組んできました。豊年祭・与論十五夜踊りに向けたしめ縄づくりや大綱の奉納、神社の清掃、サンゴ祭りの子供神輿のパレードや城敬老集落祭等も地域一体となって取り組んできました。元気なお年寄りが多く、

毎朝5時からの公民館での健康づくりの集いは欠かしたことがありません。時代による変化は受け入れながら、城に生きる誇りをしっかり受け継いで行こうと考えています。

ぜひ与論城を自分の足で登ってみてください。城の頂上にある琴平神社や隣のサザンクロスセンターの360度の展望台からは遠くの島々まで見渡せます。



与論十五夜踊り

1561（永禄4）年室町時代にシヌグ踊りとして始まったと言われており、1871（明治4）年には与論十五夜踊りとして年3回（旧暦の3月・8月・10月の各15日）、地主（トゥクヌシ）神社に島中安穏と五穀豊穡を祈願して奉納されています。この踊りは、一番組と二番組で構成されており一番組の踊りは室町時代の能や狂言等から取り入れ、仮面を付けて主に大和風の寸劇を奉納します。二番組は奄美や琉球からその踊りを取り入れ、主に琉球風の舞踊を奉納します。一番組の勇壮な寸劇と二番組の優雅な舞踊が対照的で、日本と琉球の文化史上貴重なものとされ、1993（平成5）年には国の重要無形民俗文化財に指定されました。近年、保存会では後継者対策として子どもたちへの継承に努めています。



シニグ祭り

シニグ祭りとは、2年に1度、旧暦の7月16日から3～4日間行われる稲作儀礼です。与論島神話によれば、アマミク（女神）と、シニク（男神）がヨロン島を作り、稲作を始めたと言い伝えられています。与論島のシニグ祭りはパラジという親族集団によって、サークラ（親族が集う場所で、神様の宿る石がある場所）に4本の柱が組み、そこを中心として行われます。シニグ祭りは豊作祈願と災厄払いを兼ねる祭りです。現在は稲作は少なくなり生活様式も変わったため、半数のサークラでは祭りを行っていません。2015年には与論島で16のサークラ、城集落で4つのサークラ（ミーラ・クチビヤー・ホウチ・グシクマ）で祭りが続いています。

着物（キバダ）



場所によって神衣・晴れ着（チュラギヌ）・普段着（ヤーキバラ）・仕事着（パルキバラ）に分類され主に原料には芭蕉布などが使われました。

城集落めぐり



1 サザンクロスセンター
水平線が360度見渡せる。博物館として与論や奄美の歴史の自然や暮らしについて展示されている。



3 石垣
夏は風通しがよく、涼しさを運ぶ昔ながらの石垣。集落を歩いて回れば至るところで見ることができる。



5 石造りのブタの家
明治30年代に口之津移住を推進した上野戸長屋敷跡にある。ブタは生活に密着した家畜だった。



7 Gusukupark
子ども会の花壇。集落の子供たちが作ったカラフルな作品が展示されている。さながら屋外美術館のようである。



2 地主神社・琴平神社
与論城跡にある2つの神社。旧暦の3月・8月・10月の15日に与論十五夜踊りが地主神社へ奉納されている。



4 ヒンブン屋敷
魔除けの石垣を備えた屋敷で、樹齢280年前後の与論島のフクギの元木がある。






6 与論小学校発祥の地
与論小学校発祥のナンカル学校の跡がここ城集落にある。行政、文化の中心であったことがわかる。



8 井戸の水神(左)と井戸(右)
集落を歩くと井戸を見ることができる。水神様を祭るなど、代々大切にしていることがわかる。



城集落の季節こよみ

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
風景	生きもの	ギニヤギニヤ (オキナワトカゲ)	ツミ・セッカ・イシガケチョウ	ズアカアオバト・カラスバト・アカタテハ	モンシロチョウ・ツمامラサキマダラ・サシバ	アゲハ・カバマダラ・ツバメ・クマゼミ・ホトトギス	サンコウチョウ・ギンヤンマ
	花	ルリハコベ・タカナ・パマデークニ (ハマダイコン)	キマケン・カンヒザクラ・スミレ	トゲカズラ・アワダン・シヤマヒハツ (実)	ティーチギ(シャリンバイ)・サンニン(ゲットウ)・テッポウユリ	ウンガジュマル (ネズミモチ) 	ホテイアオイ・ヒガンバナ
祭り	祭り行事	● 新正月 ● 成人式 (2日) ● 年祝い (3日)	● 正月祭り (旧 1/1) 	 サンガチサンニチ	● サンガチサンニチ (浜下り) (旧 3/3) ● 与論十五夜踊り (旧 3/15) ● 洗骨改葬 (旧 3/27, 29) ※ヨロンマラソン		● しょうぶ湯 (旧 5/5)
	畑	サトウキビ (春植え)・サトウキビ (収穫)・サヤインゲン					ドラゴンフルーツ
生業	海	サトイモ アテモヤ スターフルーツ		シーラ トビウオ		サワラ イソマグロ (トウカキン) フエフキ類 タカサゴ (ムレジ) アヒョー (キントキダイ、イットウダイ)	
		クサビ (ベラ) イセエビ ティダラ (イモガイ) ソデイカ、アサヒガニ		シヌイ (モズク)		ローニンアジ	
食	食	● ミシジマイ (旧 1/7) ● ウンニーマイ (旧 1/15) ● ニームヌ	 ミシジマイ	 ニームヌ	● プチムッチャー (ヨモギ餅、旧 3/3 浜下りと同日)	 プチムッチャー	 ツワブキ煮物
		ニーバイ (カンモンハタ)、タフ (タコ)、シビ、フブシミ (紋甲イカ)、イラブチ (ブダイ) (通年)					

7

オオゴマダラ・ヤツガシラ・カッコウ

トウクナチ(台湾ウオクサギ)



サトウキビ(夏植え)

マンゴー

アカイカ

- イユウガマ(小魚、旧 6/1)
- ミキ

8

アオタテハモドキ・キョウジョシギ

リンギチ(ゲッキツ)

- イヤーブジ(旧 7/13~15、与論のお盆)
- シニグ祭り(旧 7/17,19)
- 米寿(新 8/8)
- 洗骨改葬(旧 8/27、29)
- クーナカミシヤ(墓参り、8/29)

シブイ(トウガン)・ドゥックイ(アカウリ)・かぼちゃ

9

オオシロモンセセリ・リュウキュウアサギマダラ

ウアーバ(クロヨナ)

- 八月祭り(旧 8/1、2)
- 与論十五夜踊り(旧 8/15)



- トウンガ(団子、旧 8/15)



10

アサギマダラ・サシバ渡り・ハクセキレイ・オオコウモリ

ウップイグサ(ツルボ)・ゲツカビジン

11

サギ類・シロハラ

ソーミナギ(リュウキュウコスミレ)・ブキ(ツワブキ)・インジャナ(ホソバワダン)

- 与論十五夜踊り(旧 10/15)
- 奉仕作業：忘年会

12

ゴーヤ

ティダラ(イモガイ)

- 豚骨の煮物(新旧 12/31)



与論十五夜踊りは450年以上続いている。
土地や神様に感謝を表す想いが込められている。

あまみクイズ

クイズ Q1 金見集落 編 徳之島町

- Q1 金見集落にある木でアーチ状のトンネル道が出来ているが、それはなんの木でしょうか？
A カキの木 B ソテツの木 C りんごの木
- Q2 毎週1回開催されている集落の人たちの憩いの場ともなっている会はなんと言うのでしょうか？
A 金見水曜クラブ B 金見月曜クラブ C 金見金曜クラブ
- Q3 金見集落にはビッキヤの伝説という伝説話が存在します。ビッキヤとはなんのことを指すのでしょうか？
A トカゲ B イルカ C カエル



クイズ Q1 当部集落 編 天城町

- Q1 減反政策（米の生産量を抑える政策）によって元々田んぼだった所に栽培され始めた新たな植物は何でしょうか？
A みかん B サトウキビ C ジャガイモ
- Q2 当部の人たちは、島における集落の位置から「ある所」が怖いとよく言われます。一体それは何でしょうか？
A 海 B 崖 C 森
- Q3 昔から当部の人たちにとっての伝統ご馳走料理があります。それは一体何のお肉でしょうか？
A 鶏肉 B 豚肉 C 羊肉



クイズ Q1 上面縄集落 編 伊仙町

- Q1 上面縄に祀られていると言われているアジとはどこの国から来た人か？
A 中国 B 韓国 C 琉球
- Q2 上面縄にあるアムトッとは何の神が祀られているのでしょうか？
A 水の神 B 火の神 C 豊作の神
- Q3 ションマイカ という歌踊りのルーツと言われているのはどれでしょうか？
A 越中おわら節 B 鹿児島ハンヤ節 C 鶴崎踊り



答え：金見集落 B, A, C 当部集落 B, C, B 上面縄集落 C, B, A

クイズ
UIZ 和集落 編
和泊町

Q1 田芋の沖永良部島での呼び名はどれでしょう？

- A ターヌウン B ウム C ターニウム

Q2 和集落では戦時中、島に豊富に生えているある物を原料としたでんぷんを作り、戦時中と終戦後の食料不足を助けました。そのでんぷんの原料となったある物とはどれでしょう。

- A ジャガイモ B ソテツ C 緑豆

Q3 和集落のソーゾー（精進川）にある「謎のお地藏さん」は集落の豊作を願うために置かれたと言われています。そんなお地藏さんは両手にお茶碗とあるものを持っています。さてそれは何でしょう？

- A シャもじ B 箸 C 湯のみ



クイズ
UIZ 瀬利覚集落 編
知名町

Q1 瀬利覚集落の獅子舞の獅子の頭は何でできているでしょう？

- A ソテツ B デイゴ C オキナワウラジロガン

Q2 瀬利覚集落で開催されるジッキョヌホー祭りが開催されるのは何月でしょう？

- A 7月 B 8月 C 9月

Q3 次のうち実際にある沖永良部島のお土産はどれでしょう？（複数回答可）

- A ちなチップス B えらぶそば C シマ桑 青汁



クイズ
UIZ 城集落 編
与論町

Q1 1983年、祖先の残した文化遺産と誠の心と恵まれた自然の景観を守り、花いっぱいの願いをこめて建国されたパロディー国家が与論島には誕生しました。その名前は何でしょう？

- A ヨロンガジュマル王国 B ヨロンバナウル王国 C ヨロンユリガハマ王国

Q2 2007年に公開され、与論島が舞台となっている映画のタイトルは何でしょう？

- A めがね B えがお C こがね

Q3 与論島を一周するヨロンマラソンは毎年何月に行われているでしょう？

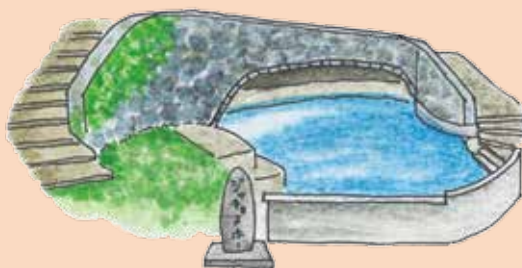
- A 3月 B 5月 C 7月



シマの命

島の暮らしは自然の恵みとともにあります。
衣食住も楽しいことも、自然を司る神様のおかげ。
だから祭りには皆で集い、神に感謝し、祈ります。
そんな奄美のシマジマの日々を支える宝を集めてみました。

水



水は命の源。ではどう確保する？

一この課題がクリアできるところに先人たちはシマを構えました。奄美群島は島によって水事情が異なります。年間3,000mmも雨が降り、豊かな森を持つ奄美大島や徳之島などの「高い島」では、山水を引いたり、当部の東又泉(アガリマタイジュン)のような湧水を利用したりしました。喜界島や沖永良部島、与論島などの隆起サンゴ礁の島は、地下や地表を流れる川(ゴー、ホー)や天水から水を確保してきました。



アマミノクロウサギ



国の特別天然記念物で、世界でも奄美大島と徳之島だけに生息するアマミノクロウサギは、シマの人々にとっては愛すべきアイドルのような存在です。夜行性で、親は地中深く穴を掘って、子どもをそこにかくまってから餌を探しに行きます。餌が多い高齢級林とその周辺に巣穴を作り、奄美大島に2,000~4,800頭、徳之島で約200頭と推定(2003年時点)されています。彼らが元気に森で暮らせることが、奄美の森の豊かさの証。かわいいけれど追いかけてたり捕まえたりせず、そっと遠くから見守ってあげましょう。

(参考：環境省ホームページ)

闘牛



砂糖地獄の圧政に苦しむ農民の娯楽として楽しんだのが闘牛(牛なくさみ)でした。徳之島では藩政時代の頃から行われ約500年の歴史があるといわれています。とりわけ徳之島では、人々が闘牛にける情熱は半端なものではありません。牛主は一家で精魂傾けて大切に世話をします。伊仙町上面縄集落は牛主が多い集落です。夕方、学校帰りの子どもたちが牛の散歩をする光景は、徳之島の日常のものです。

豚

わんかな(頭)

わ(豚)

※徳之島当部集落の呼称

わーす(豚の肉)

せーるに(あばら)

こーまき(豚足)

こーまきぶに(豚足の骨)

ちま(つま先)

すーつけわーし…塩漬け

シマで好きな食べ物は？

シマを代表する食べ物は？

それは、豚。昔は各家で子ブタの時から大切に育て、正月が近づくと一家の大事な食料となりました。頭の前から尻尾まで何通りもの料理ができ、背脂は貴重な調理油に。家族みんなで感謝して「いただきます」。

なり・ない

(ソテツの実)



毒があり、そのままでは消化できないけれど、潰して、晒して、アクを抜いてサラサラの粉にすれば優れたデンプンになる朱色の実。雌株だけにでき、鮮やかなオレンジが目を引きまます。デンプンは味噌の原料や、暑い日のおかゆの素材にもなりました。奄美では救荒作物として用いられ、「命の恩人」と呼ばれています。太く強い幹は防風林、幹の皮は焚き付けに、田中一村の絵にも登場するトゲトゲした葉は鉄分やミネラルを含むため田畑の肥料や泥染めに必要な鉄分の補完に使用されています。子どもたちにとっては、実や葉はおもちゃの材料でした。徳之島の金見集落のシマ歩きで訪ねるソテツトンネルは圧巻です。

アシャゲ、トネヤ

琉球の影響を色濃く受けてきた奄美のシマジマでは、沖縄と同じように女性の神職「ノロ」が祭祀を取り仕切っていました。ノロをノロ神様と呼ぶこともあります。伝統的な奄美の集落には、人々が集い祭りを行う広場（ミヤー）があり、そこには奉納相撲をとる土俵、祭祀を行う壁のないアシャゲ、壁をもつトネヤ、そしてイビガナシと呼ぶ立石があります。人々はこのカミミチを通して山から降りてくる神様を迎えるのです。瀬戸内町加計呂麻島の須子茂集落には、今もシマの空間構造が残っています。



須子茂

踊り

シマの一年の暦の中で、「祭り」は最も大切な行事です。集落にいる者全員でいつもの年のように準備をし、祭りの当日は遠くに住んでいる者も戻ってきて一緒に迎えます。多くの祭りや踊りは稲作文化との関わりの中で生まれました。稲作はサトウキビ作に置き換わりつつありますが、祭りは残りました。シマの結束を確かめ合う大事な機会として大切にされています。

学校でもシマのお年寄りを先生に招いて子どもたちが踊りを学び、運動会などで披露しています。



八月踊り

サトウキビ



薩摩藩の基幹産業とするべく、水田を畑に切り替えて生産が進められたのがサトウキビでした。重い税金に加え、余っても自分たちの食料になるわけでないサトウキビ。砂糖地獄という言葉に象徴される過酷な暮らしを人々は強いられました。その一方で、戸口や宇検などに代表される砂糖積み出し港が整備され、薩摩と琉球を結ぶ中継地（「道の島」）として発展しました。サトウキビ産業は今日も健在で、収穫時期の12月から3月にかけては各島の製糖工場から甘い匂いが漂ってきます。



大和浜

カミミチ

自然の力と恵みに生かされてきた奄美では、自然の全てに神が宿ると考えるアニミズムの思想が流れています。神との関わり方はシマによって異なりますが、神に感謝し祈ることが、末永く子孫が繁栄する基本であることは同じです。後背に山をいただく奄美大島の集落では、神は神山から下り、カミミチ（神道）を通して集落内を歩くと考えられています。カミミチはいつもきれいにし、神様の移動を妨げてはいけません。



中戸口

PRODUCTION NOTE

本書について 調査の記録 2015 - 2018



国は現在(2019年3月)、琉球弧の世界自然遺産登録に向けて取り組んでいます。奄美群島のうち奄美大島と徳之島がこれに含まれる予定です。これに先立つ2017(平成29)年2月には奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島がエコツーリズム推進法による認定地域に認められ、同年3月には同じ5島が奄美群島国立公園に指定されました。従来、国立公園は風景と生態系を守ることを目的としていますが、奄美群島はこれを超え、自然と生活文化が深くかわり調和して今日まで継承されてきた各集落の暮らしを価値とする「環境文化型国立公園」という新しい概念をコンセプトとしました。豊かな自然の恵みの中で生活を営み、シマごとの文化として伝えてきた奄美の暮らし方そのものが国立公園としての価値であるという意味です。本事業は、そのような奄美群島の自然と文化を象徴する集落の営み＝「宝」を掘り起こし、集落に生まれ育った人々や訪れた方々に知ってもらおうという主旨で奄美群島広域事務組合が起案した

ものです。広域事務組合は全12市町村に声をかけ、推薦があった12集落を対象に調査を行うことになりました。それが本書に登場する12のシマジマです。

調査は3回に分けて実施されました。初回はのべ4日間で、①住民への聞き書き(ヒアリング)、②シマの方々のご案内でのまち歩きによる地図づくりによって基礎的な情報をまとめました。2回目のはのべ3日間で、③ワークショップ形式での層づくりを行い、初回調査の結果報告と確認作業を行ないました。祭りや農繁期、台風シーズンなどを避けるため全集落の調査を1年間で終えることはできません。そこで2015(平成27)年度～2017(平成29)年度の3ヶ年をかけて12集落を回りました。3回目となる2018年度は、本書をまとめるために各集落の確認調査を行いました。調査は文教大学国際学部国際観光学科海津ゆりえ研究室が担当しました。エコツーリズムを研究テーマとする研究室で、学生たちは地域の宝探しやまち歩きの企画、エコツ

アーの企画などを学び、活動しています。奄美群島にとってはよそ者の本研究室が事業のお手伝いをするようになった背景に、事業開始前の2015(平成27)年8月、奄美群島文化財保護対策連絡協議会会長の故・中山清美先生が指導された大島北高校聞き書きサークルの活動にゼミナールで参加させていただいたことがありました。これが本書の企画の原点でした。

調査では、各市町村の担当職員はもちろんのこと、各シマの区長さんをはじめ、集落の方々が総出で参加してくださいました。お茶やお菓子、郷土料理などをいただきながら、世代も地域も言葉も違う学生たちの調査に温かくご対応くださり、和気藹々と進めることができました。踊りや唄を披露(時には稽古も)していただいたり、大交流会に発展した集落もありました。シマの底力を肌で感じながらの調査となりました。学生たちはすぐに卒業していきますが、卒業論文に奄美を選んだり、ひとり旅で再訪したりと繋がりは続いているようです。ご協力くださった皆

様に改めて感謝申し上げます。

各年度の調査対象集落とその様子を以下にご紹介します。

2015年度 沖永良部島(和泊町・知名町)

与論島(与論町)

- ・水の大切さ
- ・琉球との関係

●和集落(和泊町)

調査日：2015年12月26～29日、2016年3月21日～23日、2018年11月6～9日
ご協力くださった方々：和集落・関係者の皆様、和泊町役場

●瀬利覚集落(知名町)

調査日：2015年12月26～29日、2016年3月21日～23日、2018年11月6～9日
ご協力くださった方々：瀬利覚集落・関係者の皆様、知名町役場



城集落



和集落



瀬利覚集落



上面縄集落



当部集落



志戸桶集落

●城集落 (与論町)

調査日：2016年3月8～11日、2016年3月22～25日、2018年8月2～3日

ご協力くださった方々：城集落・関係者の皆様、与論町役場

2016年度

徳之島 (徳之島町・天城町・伊仙町)

喜界島 (喜界町)

- ・集いの場
- ・個性が全く異なる3つの集落
- ・道の島

●金見集落 (徳之島町)

調査日：2016年9月10～12日、2017年2月6～8日、2018年10月27日

ご協力くださった方々：金見集落・関係者の皆様、徳之島町役場

●当部集落 (天城町)

調査日：2016年9月10～12日、2017年2月5～7日

2018年10月26～27日

ご協力くださった方々：当部集落・関係者の皆様、天城町役場

●上面縄集落 (伊仙町)

調査日：2016年9月10～12日、2017年2月7～9日、2018年10月28日

ご協力くださった方々：上面縄集落・関係者の皆様、伊仙町役場

●志戸桶集落 (喜界町)

調査日：2016年9月5～9日、2017年2月2日、2018年8月3～4日

ご協力くださった方々：志戸桶集落・関係者の皆様、喜界町役場



2017年度

奄美大島・加計呂麻島 (奄美市住用町・大和村・宇検村・瀬戸内町・龍郷町)

- ・天然の良港
- ・薩摩との関係
- ・海に面した小さな集落
- ・神との関係

●市集落 (奄美市住用町)

調査日：2017年9月10日～9月12日、2018年2月23日、2018年9月6～7日

ご協力くださった方々：市集落・関係者の皆様、奄美市住用総合支所

●大和浜集落 (大和村)

調査日：2017年9月10～12日、2018年1月28日、2018年9月1～2日

ご協力くださった方々：大和浜集落・関係者の皆様、大和村役場

●宇検集落 (宇検村)

調査日：2017年9月4～6日、2018年2月23～24日

2018年9月2～3日

ご協力くださった方々：宇検集落・関係者の皆様、宇検村役場

●須子茂集落 (瀬戸内町)

調査日：2017年9月11～13日、2018年1月28～30日、2018年9月8～9日

ご協力くださった方々：須子茂集落・関係者の皆様、瀬戸内町役場

●中戸口集落 (龍郷町)

調査日：2017年9月4～6日、2018年1月28～29日、2018年8月31日～9月1日

ご協力くださった方々：中戸口集落・関係者の皆様、龍郷町役場



大和浜集落



金見集落



市集落



中戸口集落



宇検集落



須子茂集落

シマをもっと知りたい人へ

地元の文化や自然を知るには

■図書館

奄美大島 奄美市

鹿児島県立奄美図書館 ☎ 0997-52-0244
〒 894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町 1-1

奄美市名瀬公民館図書室 ☎ 0997-52-1816
〒 894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 15-1

奄美市住用公民館図書室 ☎ 0997-69-2111
〒 894-1202 鹿児島県奄美市住用町西仲間 65

奄美市笠利公民館図書室 ☎ 0997-63-1242
〒 894-0512 鹿児島県奄美市笠利町中金久 52-6

大和村
大和村中央公民館図書室 ☎ 0997-57-2311
〒 894-3104 鹿児島県大島郡大和村大字思勝字永良 477-1

宇検村
宇検村生涯学習センター図書室 ☎ 0997-67-2261
〒 894-3301 鹿児島県大島郡宇検村湯湾 2937-83

瀬戸内町
瀬戸内町立図書館・郷土館 ☎ 0997-72-3799
〒 894-1508 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 1283 - 17

龍郷町
りゅうがく館 ☎ 0997-62-3110
〒 894-0102 鹿児島県大島郡龍郷町瀬留 968-1

喜界島
喜界町
喜界町図書館 ☎ 0997-65-0962
〒 891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連 30

徳之島
徳之島町
徳之島町立図書館 ☎ 0997-82-1239
〒 891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

天城町
天城町立図書館 ☎ 0997-85-5112
〒 891-7611 鹿児島県大島郡天城町天城 430

伊仙町
伊仙町中央公民館図書室 ☎ 0997-86-3111 (内線 76)
〒 891-8293 鹿児島県大島郡伊仙町伊仙 1840

沖永良部島
和泊町
和泊町立図書館 ☎ 0997-92-3033
〒 891-9112 鹿児島県大島郡和泊町和泊 591

知名町
知名町立図書館 ☎ 0997-93-4356
〒 891-9214 鹿児島県大島郡知名町知名 412

与論島
与論町
与論町立図書館 ☎ 0997-97-4910
〒 891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 257-1

■博物館、資料館、展示館

奄美大島
奄美市
鹿児島県奄美パーク(奄美の郷・田中一村記念美術館)
〒 894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834
☎ 0997-55-2333 (奄美の郷)
☎ 0997-55-2635 (田中一村記念美術館)

奄美市立奄美博物館 ☎ 0997-54-1210
〒 894-0036 鹿児島県奄美市名瀬長浜町 517

奄美市歴史民俗資料館 ☎ 0997-63-9531
〒 894-0624 鹿児島県奄美市笠利町大字須野 670

大和村
環境省奄美野生生物保護センター ☎ 0997-55-8620
〒 894-3104 鹿児島県大島郡大和村思勝 551

大和村中央公民館郷土資料室 ☎ 0997-57-2311
〒 894-3104 鹿児島県大島郡大和村大字思勝字永良 477-1

宇検村
宇検村生涯学習センター 元気の出る館 ☎ 0997-67-2261
〒 894-3301 鹿児島県大島郡宇検村湯湾 2937-83

瀬戸内町
瀬戸内町立図書館・郷土館 ☎ 0997-72-3799
〒 894-1508 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 1283 - 17

龍郷町
りゅうがく館 ☎ 0997-62-3110
〒 894-0102 鹿児島県大島郡龍郷町瀬留 968-1

加計呂麻島
瀬戸内町
加計呂麻島展示・体験交流館 ☎ 0997-76-0676
〒 894-2141 鹿児島県瀬戸内町諸鈍操原 316

喜界島
喜界町
喜界町歴史民俗資料室(中央公民館内) ☎ 0997-65-0229
〒 891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連 18-2

徳之島
徳之島町
郷土資料館 ☎ 0997-82-2908
〒 891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

天城町
天城町歴史文化・産業科学資料センターユイの館 ☎ 0997-85-4720
〒 891-7611 鹿児島県大島郡天城町天城 439-1

伊仙町
伊仙町歴史民俗資料館 ☎ 0997-86-4183
〒 891-8201 鹿児島県大島郡伊仙町伊仙 2945-3

沖永良部島

和泊町

西郷南洲記念館 ☎ 0997-92-0999
〒 891-9112 鹿児島県大島郡和泊町大字和泊 587-3

和泊町歴史民俗資料館

☎ 0997-92-0911
〒 891-9121 鹿児島県大島郡和泊町根折 1313-1

知名町

中央公民館郷土資料室 ☎ 0997-93-2041
〒 891-9214 鹿児島県大島郡知名町知名 411

与論島

与論町

サザンクロスセンター ☎ 0997-97-3396
〒 891-9302 鹿児島県大島郡与論町立長 3313

観光情報を知りたいときには

■ 観光協会等

奄美大島

奄美市

(一社) あまみ大島観光物産連盟 ☎ 0997-53-3240
〒 894-0027 鹿児島県奄美市名瀬末広町 14-10
AiAi ひろば 1 階

宇検村

宇検村観光物産協会 ☎ 0997-67-2071
〒 894-3301 鹿児島県大島郡宇検村湯湾 2937-34

瀬戸内町

奄美せとうち観光協会 ☎ 0997-72-1199
〒 894-1503 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋大湊 26-14

喜界島

喜界町

喜界島観光物産協会 ☎ 0997-65-1202
〒 891-6202 鹿児島県大島郡喜界町湾 1298
(喜界町農産物加工センター内)

徳之島

天城町

(一社) 徳之島観光連盟 ☎ 0997-81-2010
〒 891-7605 鹿児島県大島郡天城町浅間 1-1
(徳之島子宝空港内)

沖永良部島

知名町

(一社) おきのえらぶ島観光協会 ☎ 0997-84-3540
〒 891-9202 鹿児島県大島郡知名町屋者 1029-3

与論島

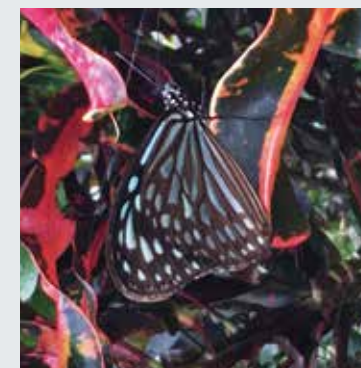
与論町

ヨロン島観光協会 ☎ 0997-97-5151
〒 891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 32-1

奄美群島

奄美市

(一社) 奄美群島観光物産協会 ☎ 0997-58-4888
〒 894-0023 鹿児島県奄美市名瀬永田町 18-6



掲載内容についてのお問合せ

奄美群島広域事務組合 奄美振興課

〒 894-0023 鹿児島県奄美市名瀬永田町 18-6

☎ 0997-52-6032

残したいもの 伝えたいもの

2019年3月28日 第1版第1刷 発行

●発行

奄美群島広域事務組合

●執筆

高梨修 (奄美市立奄美博物館館長)

文教大学国際学部奄美プロジェクトチーム

●監修

町健次郎 (瀬戸内町立図書館・郷土館学芸員)

●協力

泉和子、大村達郎、喜島浩介、富永誠吾、中山昭二

●調査

奄美大島・加計呂麻島

市集落 (奄美市住用町)	關祥一、小倉琴美、佐藤志穂、半田紘子、星摩結子
大和浜集落 (大和村)	桑原春佳、松橋星弥、小島陽香、上村野々花
宇検集落 (宇検村)	内田吉音、内藤雄太、宮島朋花、武井美鈴、飯田仁美
須子茂集落 (瀬戸内町)	倉地未央、岩下晏奈、田村美波、亀沢萌香、酒井優希
中戸口集落 (龍郷町)	瀬戸優菜、関口貴大、渡辺美緒、今井未来、野澤優介、高森彩花

喜界島

志戸桶集落 (喜界町)	関根早耶加、成見瑛奈、伴かおり、今井未来、渡邊佳那
-------------	---------------------------

徳之島

金見集落 (徳之島町)	内山美穂、飯島雅人、前田奏恵、橋本真那
当部集落 (天城町)	岩下晏奈、須藤千穂、田村美波、鈴木志穂那
上面縄集落 (伊仙町)	角田安優実、亀沢萌香、倉地未央、澁谷正洋

沖永良部島

和集落 (和泊町)	中村彩乃、渡邊菜月、園田由理子、島崎嗣詩
瀬利覚集落 (知名町)	毛塚春和、栞原詩歩、大塚翼、鈴木壘

与論島

城集落 (与論町)	今井未来、関根早耶加、成見瑛奈、一倉有紀、伴かおり、百瀬大河
-----------	--------------------------------

●企画・編集

海津ゆりえ (文教大学国際学部)

●デザイン

滝口貴美子 (株式会社アートポスト)

●イラスト

末永えりか

●印刷

株式会社高陽堂印刷

参考文献

わきゃシマぬあゆみ (住用村の歴史と暮らし) 第一集 (2005) / 大和村誌上巻・下巻 (2010) / 宇検村誌 自然・通史編 (2017) / 瀬戸内町誌 民俗編・歴史編 (2007) / 龍郷町誌 民俗編・歴史編 (1988) / 喜界町誌 (2000) / 徳之島町誌 (1970) / 天城町誌 (1978) / 伊仙町誌 (1978) / 和泊町誌 民俗編・歴史編 (1984) / 知名町誌 (1982) / 与論町誌 (1988) / 南西諸島の神概念 (住谷一彦、ヨーゼフ・クライナー、1999) / あるくみるきく No.63 特集奄美大島南部の島々 (1972)

非売品。発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。





オキナワウラジロガシ



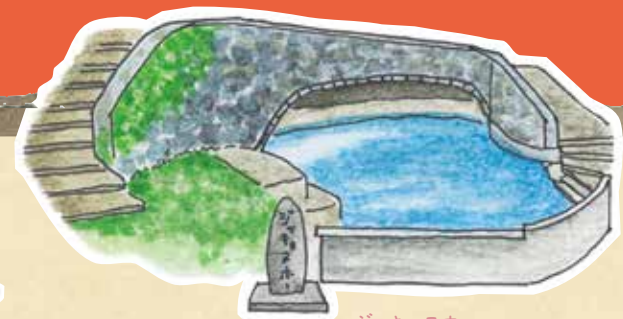
トビンニヤ



オヒルギ・メヒルギ



ポレグラ



ジッキョヌホー



ミヤーの跡



ケンムン公園



ションマイカ



墓送り



坂元権現



アガリマタイジュン



土俵



獅子舞